

令和 7 年度

教育委員会の事務の点検及び

評価に関する報告書

(令和 6 年度の事業実績)

令和 7 年 8 月

田舎館村教育委員会

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正（平成27年4月1日施行）された。それに伴い、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出して公表するものである。

そこで、この報告書は、教育委員会が令和6年度の教育方針に基づいて、学校教育・社会教育・社会体育・文化行政の各領域の重点ごとに掲げた主要施策への取り組み状況について点検及び評価を行ったものである。

このことは、本報告書を議会に提出するとともに、公表することによって、村民への説明責任を果たし、村民に信頼される教育行政を推進するものである。

また、今後、点検及び評価の在り方の工夫に努めるとともに、結果をこれからの施策等に反映させ、継続的に事業の改善を図っていく必要がある。そのためにも、より一層の御理解と御協力、御支援を賜りたく心から切に願うものである。

目 的

事務の点検・評価は、同法第26条の規定に基づき、教育委員会が教育に関する事務の管理及び執行の状況を点検・評価することで、効果的な教育行政の推進に資するとともに、議会への提出と公表を行い、住民に対する説明責任を果たすことを目的とする。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

| | | |
|---|---------------------------------|------|
| 1 | 教育委員会の活動状況 | p.3 |
| | (1) 教育委員の職務権限 | p.3 |
| | (2) 田舎館村教育委員会教育委員名簿 | p.3 |
| | (3) 教育委員会会議の開催状況と審議内容 | p.4 |
| | (4) 教育委員会会議以外の活動内容 | p.5 |
| 2 | 田舎館村教育委員会における点検・評価の取り組み | p.7 |
| | (1) 令和6年度教育方針 | p.7 |
| | (2) 重点施策 | p.7 |
| | (3) 良好な教育環境づくりの推進 | p.7 |
| | (4) 食育の推進 | p.7 |
| | (5) 点検・評価の対象及び実施方法 | p.7 |
| | (6) 評価の基準 | p.7 |
| | (7) 田舎館村教育方針体系図 | p.8 |
| 3 | 令和6年度（令和6年4月～令和7年3月）重点施策の点検・評価 | p.9 |
| | (1) 生きる力と夢はぐくむ学校教育の推進 | p.9 |
| | 〈田舎館小学校〉 | p.9 |
| | 〈田舎館中学校〉 | p.22 |
| | (2) 一人一人の学習と社会参加を実現する社会教育の推進 | p.36 |
| | (3) 健やかで活力に満ちた生涯スポーツ及び競技スポーツの振興 | p.42 |
| | (4) 未来へ伝える芸術文化の振興と文化財の保護・活用 | p.44 |
| | (5) 良好な教育環境づくりの推進 | p.47 |
| | ア 学校教育施設の充実 | p.47 |
| | イ 社会教育施設の充実 | p.50 |
| | ウ 国・県・村指定文化財 | p.52 |
| | (6) 食育の推進 | p.53 |
| 4 | 令和6年度社会教育関係事業実績 | p.54 |
| | (1) 家庭教育 | p.54 |
| | (2) 青少年教育 | p.54 |
| | (3) 成人教育 | p.55 |
| | (4) 高齢者教育（白寿大学） | p.55 |
| | (5) 社会体育（生涯スポーツ） | p.56 |
| | (6) 文化活動及び保護、活用事業 | p.57 |
| | (7) 地域づくり事業 | p.58 |
| | (8) その他（村内諸団体の開催事業） | p.59 |

1 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員の職務権限

教育委員会は、政治的中立性を維持しつつ、安全性・継続性を確保して教育行政を管理執行するため、首長から独立した合議体の執行機関として設置されている。

田舎館村教育委員会は、村長が議会の同意を得て任命された代表者である教育長と4人の非常勤の教育委員で組織されている。

《主な職務権限》

- ア 教育に関する事務の管理・執行に関すること及び主要な教育施策の確立並びに変更と実施に関すること。
- イ 規則・訓令の制定及び改廃に関すること。
- ウ 教育委員会が所管する職員の任免、分限及び廃止に関すること。
- エ 学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。
- オ 通学区域の設定及び変更に関すること。
- カ 教育予算その他議会の議決を経るべき事件の議案について、意見を申し出ることに関すること。
- キ 教科用図書の採択に関すること。
- ク 附属機関の委員の任免、委嘱及び解職に関すること。
- ケ 教育に関する事務管理、執行状況の点検及び評価に関すること。

(2) 田舎館村教育委員会教育委員名簿（令和7年3月31日現在）

| 職名 | 氏名 | 就任年月日 | 備考 |
|--------------|--------|---|--------------------------------------|
| 教育長 | 工藤 義明 | 令和 3年11月 1日 令和 5年11月15日 | 教育長再任 |
| 教育長 職務代理者 | 佐野 ケイ子 | 平成27年10月 3日 平成27年10月 5日 平成29年11年15日 令和 元年10月 3日 令和 5年10月 3日 | 教育委員長就任 教育長職務代理者就任 教育委員再任 " |
| 委員 | 福士 純子 | 平成29年 7月13日 令和 3年 7月13日 | 教育委員再任 |
| 委員 | 工藤 公彦 | 平成29年 7月13日 令和 2年 7月13日 令和 6年 7月13日 | 教育委員再任 |
| 委員 | 須藤 雅樹 | 令和 4年10月 1日 | 教育委員就任 |

- ア 教育長及び教育委員は、村長が議会の同意を得て任命する。
- イ 教育長は、教育委員会の権限に属するすべての教育行政事務の具体的な執行を行う。この教育長の総括の下には、事務の処理を行う組織として事務局があり、学校教育課《学務係、学校給食係》、生涯学習課《社会教育係、生涯学習係、文化財係》が

設置されている。

(3) 教育委員会会議の開催状況と審議内容

令和6年度は、会議が5回開催され、下表の議案について審議を行なった。

| 回 | 開催期日 | 種 別 | 内 容 | 審議結果 |
|---|-------|---|--|------|
| 1 | 6月13日 | 報告第3号 報告第4号 報告第5号 報告第6号 報告第7号 | 田舎館村教育委員会配置換えに伴う規則等の一部改正について 田舎館村就学援助事業実施要綱の一部改正について 田舎館村村立小・中学校学習支援員設置要綱及び特別支援教育支援員設置要綱の一部改正について 田舎館村学校給食費無償化実施に伴う規則等の制定について 入札結果について | 原案可決 |
| 2 | 7月30日 | 議案第7号 議案第8号 議案第9号 報告第8号 報告第9号 | 令和6年度教育委員会の事務の点検及び評価に関する報告書について 田舎館村子ども読書活動推進計画について 令和7年度使用中学校用教科用図書について 田舎館村教育委員会専決代決規程の一部改正について 入札結果について | 原案可決 |
| 3 | 1月17日 | 議案第1号 議案第2号 議案第3号 | 令和6年度田舎館村教育委員会表彰について 田舎館村奨学金貸与条例の一部改正について 田舎館村村立小・中学校教職員の働き方改革プランについて | 原案可決 |
| 4 | 2月14日 | 議案第4号 議案第5号 議案第6号 議案第7号 | 令和7年度田舎館村教育方針について 田舎館村スポーツ少年団等大会参加補助事業要綱を廃止する訓令について 田舎館村小・中学生スポーツ大会等参加補助事業要綱の制定について 田舎館村学校給食の実施及び学校給食費の管理に関する規則の一部を改正する規則について | 原案可決 |

| | | | | |
|---|-------|--------|-------------------------------------|------|
| | | 議案第8号 | 県費負担校長及び教頭の人事異動について | |
| | | 報告第1号 | 令和7年度予算内示について | |
| 5 | 3月17日 | 議案第9号 | 令和7年度田舎館村社会教育の方針と重点について | 原案可決 |
| | | 議案第10号 | 田舎館村「コミュニティー推進事業」実施要綱の一部を改正する訓令について | |
| | | 議案第11号 | 田舎館村スポーツ推進委員の委嘱について | |
| | | 議案第12号 | 田舎館村文化財保護審議委員会委員の委嘱について | |
| | | 議案第13号 | 田舎館村修学旅行費補助金交付要綱の制定について | |
| | | 議案第14号 | 田舎館村教育委員会事務局の人事について | |

(4) 教育委員会会議以外の活動内容

ア 村議会への出席

教育長が本会議に出席し、一般質問について必要に応じて答弁を行っている。

イ 各協議会への出席

青森県市町村教育委員会連絡協議会及び青森県町村教育長協議会並びに南地方市町村教育委員会連絡協議会等の会員として役員会や定期総会に出席し、教育事業に関する要望や情報収集など、学校教育及び社会教育の施策に係る活動を行っている。

| | | |
|---------|------------------------|------|
| 4月 1日 | 中南管内新規採用教職員辞令交付式 | 弘前市 |
| 4月 3日 | ふるさと教育研修（新任教職員研修） | 田舎館村 |
| 4月 9日 | 中南管内小・中学校長会議 | 弘前市 |
| 4月10日 | 県町村教育長協議会定期総会 | 青森市 |
| 4月10日 | 県市町村教育委員会教育長会議 | 青森市 |
| 4月11日 | 南地方学校教育振興会定時総会 | 大鰐町 |
| 4月16日 | 南地方市町村教育委員会連絡協議会定期総会 | 黒石市 |
| 4月25日 | 南地方小中学校教頭会総会（※1） | 大鰐町 |
| 5月 8日 | 第2回津軽南地区教科用図書採択協議会 | 平川市 |
| 5月9・10日 | 東北町村教育長連絡協議会定期総会 | 八戸市 |
| 5月中旬 | 全国町村教育長会定期総会（※1） | 東京都 |
| 5月17日 | 県市町村教育委員会連絡協議会教育長会定期総会 | 青森市 |
| 5月28日 | 第3回津軽南地区教科用図書採択協議会 | 平川市 |

| | | |
|--------|---------------------------|-----|
| 5月31日 | 第1回中南地区連携推進協議会 | 弘前市 |
| 7月17日 | 第4回津軽南地区教科用図書採択協議会 | 平川市 |
| 8月8日 | 南地方市町村教育委員会連絡協議会第1回教育長会議 | 黒石市 |
| 8月8日 | 第5回津軽南地区教科用図書採択協議会 | 黒石市 |
| 8月26日 | 県町村教育長協議会研修会 | 青森市 |
| 10月3日 | 南地方小中学校校長会合同研修会 | 弘前市 |
| 10月11日 | 南地方市町村教育委員会連絡協議会研修会 | 黒石市 |
| 11月6日 | 青森県市町村教育委員会教育長会議 | 青森市 |
| 11月7日 | 東北町村教育長連絡協議会役員会 | 八戸市 |
| 11月8日 | 南地方市町村教育委員会連絡協議会第2回教育長会議 | 弘前市 |
| 11月22日 | 南地方小中学校校長会合同研修会 | 弘前市 |
| 12月24日 | 第1回管内教育長会議・人事異動事情聴取 | 弘前市 |
| 1月28日 | 第2回管内教育長会議・人事異動事情聴取 | 弘前市 |
| 2月5日 | 第3回管内教育長会議・人事異動事情聴取 | 弘前市 |
| 2月12日 | 県町村教育長協議会第2回役員会・監査会 | 青森市 |
| 2月17日 | 第4回管内教育長会議・人事異動事情聴取 | 弘前市 |
| 2月17日 | 第2回中南地区連携推進協議会 | 弘前市 |
| 3月24日 | 南地方市町村教育委員会連絡協議会役員会兼教育長会議 | 黒石市 |
| 3月31日 | 県定年・勸奨退職、教頭昇任辞令交付式 | 弘前市 |

※1 都合により欠席

ウ 学校訪問

年2回村立小・中学校を訪問して授業を参観するとともに、教育環境整備の現状把握及び児童・生徒の教育活動の実態を校長等から説明を受け、学校教育の現状を把握する。

| | | |
|------|-------|--------------------------------|
| 第1回目 | 6月27日 | 授業参観及び学校教育目標等教育活動の推進状況と経営内容を把握 |
| 第2回目 | 1月24日 | 授業参観及び学校教育活動の推進評価及び課題把握 |

エ 学校・教育委員会・村の行事等への出席

学校・教育委員会・村が主催する行事に出席し、学校教育及び社会教育の活動内容を把握し、それぞれの教育活動の推進状況を実際に参加して確認する。

| | |
|---------|---------------------------------|
| 学校関係 | 入学式・卒業式・運動会・文化祭・小中学校交流会 |
| 教育委員会関係 | はたちを祝う記念式典・村民レクリエーション大会・教育委員会表彰 |
| 田舎館村 | 新年互礼会 |

2 田舎館村教育委員会における点検・評価の取り組み

(1) 令和6年度教育方針

田舎館村教育委員会は、豊かな心と郷土に対する誇りを持ち、健康で創造性に富み、広い視野を持って変化の著しい社会に主体的に対応できる村民の育成を目指した教育の推進に努めます。

特に、本村は古くから北方稲作文化の地であり、輝かしい歴史と伝統を築いてきた先人の偉大な足跡を誇りとし、安全・安心で良好な教育環境の整備を進め、関係諸団体との緊密な連携を図りながら村民憲章の日常化を目指します。それに伴って、教育は人づくりという原点に立ち、生きる力と夢はぐくむ学校教育、一人一人の学習と社会参加を実現する社会教育、健やかで活力に満ちた生涯スポーツの振興、未来へ伝える芸術文化の振興と文化財の保護・活用、良好な教育環境づくりの推進に努め、充実した田舎館村の教育を推進します。

(2) 重点施策

- ア 生きる力と夢はぐくむ学校教育の推進
- イ 一人一人の学習と社会参加を実現する社会教育の推進
- ウ 健やかで活力に満ちた生涯スポーツ及び競技スポーツの振興
- エ 未来へ伝える芸術文化の振興と文化財の保護・活用

(3) 良好な教育環境づくりの推進

- ア 学校教育施設の充実
- イ 社会教育施設の充実

(4) 食育の推進

(5) 点検・評価の対象及び実施方法

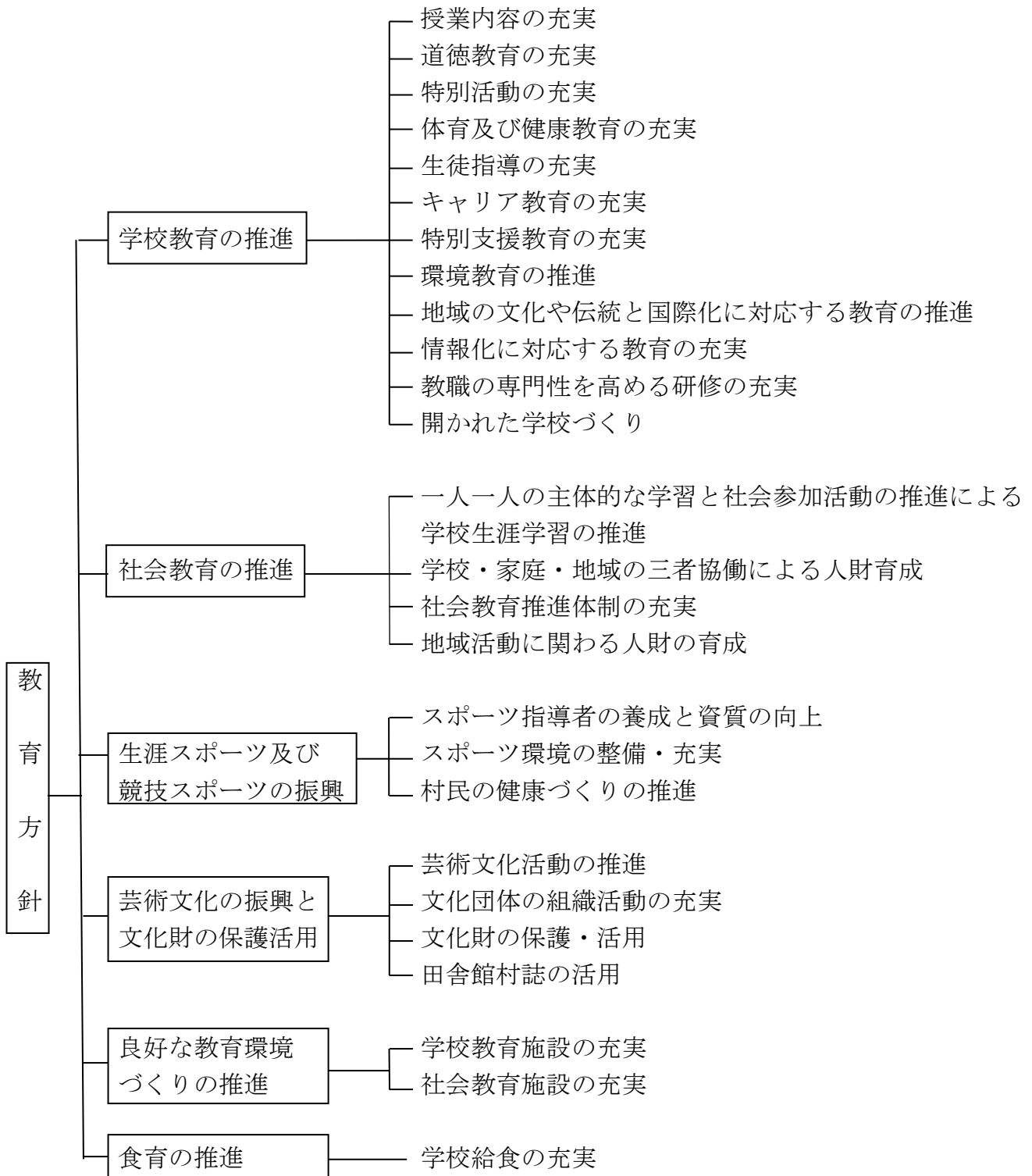
点検評価の対象は、前年度（令和6年度）に管理及び執行した事務のうち田舎館村教育方針に基づく各事業を教育委員会が自己評価した。達成度については、A～Eの5段階で評価を行った。

なお、事業の内容と性格によっては、成果の判断が困難なものや達成状況の把握がしづらいものもあったが、事業が及ぼす効果ではなく、計画された事業をどの程度実施したかに基づいて各事業の評価を行った。

(6) 評価の基準

- A段階 十分達成された〈80～100%の成果をあげることができた〉。
- B段階 概ね達成された〈60～75%程度の成果をあげることができた〉。
- C段階 やや達成された〈半分程度の成果をあげることができた〉。
- D段階 達成に向けて努力している〈動き始めることができた〉。
- E段階 取り組むことができなかった。

(7) 田舎館村教育方針体系図



3 令和6年度重点施策の点検・評価

(1) 生きる力と夢はぐくむ学校教育の推進

〈田舎館小学校〉

| 重点 施策 | 重点項目 (事業名等) | 施策・事業の実施状況 | 実績・成果及び課題や 今後の取組 | 達成度 |
|------------------|---|---|---|-----|
| 1 授業内容 の充実 | ア 主体的に考え、対話を通して相手の考えを深く理解し、自分の考えを論理的に言えるような言語活動の充実を図るとともに、それに伴った指導計画等の整備に努める。 | 1 一人一人の子どもを見取り、学級全体で協働的に問題を解決する仕方や、子どもの興味・関心・よさを生かした自主的・自発的な学習が促されるICTの活用の工夫によって、子どもが主役の授業改善に向け、授業実践を主体に研修を進めた。 2 架け橋プログラムを含めた年間指導計画の見直しを図り、言語活動の設定の見直しを図った。 | 1 協働的に問題を解決しようとする子どもの姿は増えたが、個人差が大きく話す場面や書く場面での子どもが言葉で表現することに課題が見られた。ICTについては、全体での発表、教材の説明、振り返りの入力など活用の幅が広がり子どもの自主的な学習につながった。 2 年間指導計画の見直しは、次年度の実践の効率化や質の向上につながるよう継続する。 | A |
| | イ 一人一人の子どもが、各教科及び総合的な学習の時間等において、確かな学力を身に付けることができるよう、目指す資質・能力を明確にするとともに、学習の過程や成果の的確な把握と基礎的・基本的内容をしっかりと押さえ、学習の仕方と一人学びのできる指導の改善につながる評価の工夫に努める。 | 1 確かな学力を定着させるための教員研修を推進するとともに、支援を要する子どもの対応や学力差が大きい算数や国語で支援員を活用し、個に応じた指導の充実に努めた。 2 子どもが主体的に家庭学習に取り組むことができるよう「家庭学習のすすめ」を全学年に配付するとともに、肯定的な評価に努めた。 | 1 研修による授業改善、それによる確かな学力の定着に進展は見られたが、支援を要する子どもが年々増加していること、学年が上がるにつれ一層顕著になること等、個人差への対応が引き続き課題である。 2 家庭学習の進め方について保護者と共通理解を図ることで、全体に家庭学習の習慣化が図られている。さらに学習内容の質的な向上が図られるよう、個に応じた指導等、家庭と連携して取り組んでいく。 | B |

| | | | | |
|------------------|--|---|---|---|
| | <p>ウ 基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得と「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性」の涵養に向けた教材研究をさらに深め、個に応じた指導に努める。</p> | <p>1 ICT機器を授業に積極的に活用し、教材や資料の提示の工夫をした。</p> <p>2 子どもの興味・関心・よさを引き出したり、疑問やつぶやき等を課題解決に結び付けたりする工夫をした。</p> | <p>1 ICTの使用は、子どもの学習意欲向上に効果的だった。タブレット等操作に慣れることで今後も学習効果をさらに高めていく必要がある。</p> <p>2 子どもが意欲的に学習するようになり、前学年と比較すると標準学力検査の4～7割の観点が上昇した。</p> | A |
| | <p>エ 各教科等の特質に応じた体験活動をとおして、自主性や自立心の助長を図り、問題を解決する力を身に付けることができる指導の工夫に努める。</p> | <p>1 修学旅行、自然体験教室、農業体験など各学年に応じた体験活動を計画的に実施し、自主性や問題解決能力の育成に努めた。</p> | <p>1 特に宿泊を伴う活動では、自主性や自立心を育み、よりよく生きることを考えさせることができた。今後も、学ぶ意欲に結び付く体験活動を積極的に実施する必要がある。</p> | A |
| | <p>オ 学校図書室やICTなどを活用し、子どもの学びを支援する学習環境と学習活動の充実に努める。</p> | <p>1 読書しやすい環境や、教育活動全体で活用しやすいICT環境の整備に努めた。</p> | <p>1 ICTの活用場面が増え、学習内容が分かると感じる子どもが増えた。また、学習内容により、アナログとデジタルを使い分けることで学習効果が上がった。今後も、学習環境整備の推進に努める必要がある。</p> | A |
| 2 道徳教育 の充実 | <p>ア 一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会などの実生活に生かし、教育活動全体を通じて、豊かな心と広い視野を育む道徳教育の指導体制と全体計画の整備・充実に努める。</p> | <p>1 「特別の教科 道徳」の学習を中心に、教育活動全体を通して道徳心を養うよう、学習と具体的な生活場面とを関連付けて指導した。</p> | <p>1 道徳教育の別葉から、主な学校行事や特別活動、各教科との関連、道徳教育の重点内容項目や学年別重点目標が達成されてきた。今後も全教育活動において道徳教育を推進する必要がある。</p> | A |

| | | | | |
|---|---|--|---|--|
| | | 2 「いのちの学習」を全学年が実施し、生命の尊さに関する道徳的心情を養うよう努めた。 | 2 全校で「いのちの学習」を行ったことで、生命尊重の大切さを学ぶ機会となった。今後は参観日で行うなど、家庭教育との連携協働を進める必要がある。 | |
| イ 友情、思いやり、協調性がもてるような道徳的実践力を高め、道徳的判断力や心情的実践意欲と態度が身に付く指導に努める。 | 1 「特別の教科 道徳」の学習の中で、道徳的判断力を養うとともに、学習したことが日常生活で実践できるように指導をした。 2 朝読書やお話会を活用し読み聞かせを実施した。 | 1 学習内容を自分事として捉え、自分の行動を振り返り、成長を実感することで道徳的な判断力や実践力が高まった。協調性や公共施設でのマナー等の定着が不十分な子どもも見られるので、今後も指導法の工夫や保護者との連携が必要である。 2 読書や読み聞かせは、全学年の豊かな情操の育成につながった。 | A | |
| ウ 正しい判断力と公德心を持ち、郷土を愛する心とボランティアの心の育成に努める。 | 1 年に2回、運営委員会が中心となって募金活動を行った。 | 1 募金は、自分ができるところを考えるよい機会だが、日常の学校生活で郷土愛とボランティアの心を育成する活動の工夫を、今後も継続する必要がある。 | B | |
| エ 道徳科の学習状況と子どもの道徳的成長を継続的に把握・評価し、指導の工夫に努める。 | 1 「特別の教科 道徳」の学習の状況を評価・記録したり、道徳ノートに記載内容等を把握・評価したりしながら指導法を工夫した。 | 1 評価の観点を明確にし、記録方法を工夫して、計画的に子どもの道徳的成長を把握する必要がある。 | B | |

| | | | | |
|------------------|--|---|---|---|
| 3 特別活動 の充実 | ア 一人一人の子どもが、様々な集団活動を自主的、実践的に行い、集団や自己の生活上の課題解決を図り、集団及び社会での生活や人間関係がより良く築けるように、子どもに必要な資質や能力の育成に努める。 | 1 「青森県一の学校」という全校テーマを設定し、委員会活動を通して学校生活の課題解決に取り組む機会を設けた。 2 縦割り班清掃等、異学年交流の活動に取り組んだ。 | 1 6年生をリーダーとして、「青森県一」になるためには、どのようなことができるのか意欲的に話し合い、実行する姿が見られた。 2 異学年で協働することを通して「働く心」や「思いやりの心」等子どもの成長につながっている。 | A |
| | イ 子どもの生き生きとした自主的態度を育てる学級活動やホームルーム活動の推進に努める。 | 1 子どもが主体的に活動することができるよう学級活動の年間指導計画を見直し実施した。 | 1 年間指導計画があることで、子どもに任せるべき活動を見通して計画し実施することができた。 | A |
| | ウ 自治活動を高める子ども会活動や生徒会活動を積極的に推進する。 | 1 年に2回、児童会総会を実施し意識を高めることで、「青森県一」等、学校生活上の諸問題解決に取り組んだ。 | 1 6年生を中心に、よりよい学校づくりに向けた雰囲気や実践力が高まった。さらに、子どもの意識を高めながら活動を展開する。 | A |
| | エ 子どもの豊かな個性を伸ばすとともに、仲間同士の触れ合いの場を大切にするクラブ活動や部活動の活性化を目指す。 | 1 年に7回、仲間と協力して活動できるクラブ活動を実施した。 2 子どもの興味・関心に寄り添うような内容のクラブ編成にした。 | 1 子どもの興味を生かしたクラブを設定し、異学年の仲間と協力しながら活動を進める姿が見られた。 2 地域人材を講師として活用することで、子どもの活動の幅を広げることができた。 | A |
| | オ 子どもが主役となるような自主的活動による感動の場面や集団への所属感・連帯意識を深めるような学校行事の内容を工夫する。 | 1 子どもが主役となる1年生を迎える会や運動会、学習発表会、6年生を送る会を実施した。 | 1 一人一人の子どもが主役になるように内容構成や役割分担をして実施することで、子どもが達成感を味わい、成長につながった。 | A |

| | | | | |
|--------------------------|--|--|---|----------|
| <p>4 体育及び健康教育の充実</p> | <p>ア 一人一人の子どもが、一生涯にわたって運動に親しみ、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを送ることができるように、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体として捉え、健やかな体を育む教育の推進に努める。</p> | <p>1 体育科の導入時に多様な動きを取り入れるなどの工夫をした。</p> <p>2 新体力テストの結果を指導に生かした。</p> <p>3 「ラッキーデー」の設定等、子どもが主体的にマラソンや縄跳びに取り組めるよう工夫をした。</p> | <p>1 体育科の導入場面で、主運動の基礎となる動きを組み込むことで、運動に親しむ態度が身に付いてきた。</p> <p>2 子どもの運動能力を客観的に把握し、改善すべき点を明らかにすることができた。体育科で体力を高める運動を学年に応じて指導し、実態改善につながった。</p> <p>3 マラソンカードを活用しながら、子どもが楽しみながら継続できる体育委員会の企画により、主体的に体力づくりに取り組む子どもが増えた。</p> | <p>A</p> |
| | <p>イ 健康に関する知識を身に付け、積極的に健康な生活を実践できる指導の充実に努める。</p> | <p>1 むし歯予防教室を全学年で実施した。</p> | <p>1 歯科衛生士を招き、全学年が正しい歯磨きの仕方やむし歯になりやすい食習慣などを学んだ。家庭での歯磨きに生かされるよう、学年・学級だよりで保護者と連携した。</p> | <p>A</p> |
| | <p>ウ 安全な生活を送る基礎を培い、安全で安心な社会づくりに参加し貢献できる資質・能力を育てる。</p> | <p>1 全ての学校行事に緊急時対応の項目を設定し、全教職員の共通理解と共通実践を行った。</p> | <p>1 子どもは危険予知、危険回避の方法を学び、安全に気を付ける意識は高まってきた。スクールバスの乗車マナーは継続的に指導する必要がある。</p> | <p>A</p> |
| | <p>エ 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができる指導の充実に努める。</p> | <p>1 食の指導を全学年で実施した。</p> | <p>1 各学年の発達段階に応じて、栄養バランスの整った食事の重要性や噛むことの必要性を指導することができた。発達段階に応じて、継続して指導する必要がある。</p> | <p>A</p> |

| | | | | |
|------------------|--|---|---|---|
| 5 生徒指導 の充実 | ア 一人一人の子どもが、健やかに成長することができるよう、家庭や地域及び関係機関等と連携を図り、心の結びつき基調として支えるとともに、問題行動や不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。 | 1 村教育委員会や厚生課、スクールカウンセラー、児童相談所と連携を図った。 2 年に3回、子ども、保護者にいじめアンケートを実施した。 | 1 村教育委員会や各機関と情報交換を行い、問題行動に対する対応を臨機応変に行った。今後も情報を集約し適切な対応をする必要がある。 2 保護者と子どもにアンケート調査を行い、いじめや問題行動の早期発見に努めた。いじめとして認知した場合は、組織的に対応し保護者の理解を得て解消した。 | A |
| | イ 基本的な生活習慣を身に付けさせ、一人一人が持っている良さを認めながら励まし、個性を大切にしたい生徒指導に努め、自己指導能力を育成する協働的指導体制の充実に努める。 | 1 「いいねカード」に取り組み、子どもの自己肯定感が高まるよう指導法を工夫した。 2 基本的な生活習慣の定着を目指し、指導事項を全校で統一し、生活目標と関連させながら指導した。 | 1 「いいねカード」で認めることで、良い行いや望ましい行動を全校に啓発しながらも、さらに多様性を認める指導も推進した。よりよい生活習慣が定着するよう取組を継続する必要がある。 2 廊下歩行や挨拶、時間を守る等、職員間で情報共有しながら全校で統一した指導を行った。学校においては改善傾向にあるため、保護者との連携を密にする必要がある。 | A |
| | ウ 生徒指導の実践上の視点を生かした学習指導と学年・学級・ホームルーム経営の充実に努める。 | 1 自己有用感を高める係活動や集団活動を実施した。 2 学年間での連携を密に行い、共通の認識で指導できるようにした。 | 1 子どもが、達成感や自己有用感、学級への所属感を高くもつようになった。 2 学年の会議や情報交換、相談など日常的に行い、連携や協力体制を築くことができた。 | A |
| | エ 子どもの内面からの理解に基づいた教育相談の充実に努める。 | 1 随時、教育相談を実施した。スクールカウンセラーの協力のもと、不登校傾向の子ど | 1 子どもが何でも話せるように担任以外の教師からも声がけをするようにしたことで、子どもからの相談が積極的になった。 | A |

| | | | | |
|--|--|---|--|--|
| | | <p>もや保護者とも面談をする機会を確保した。</p> <p>2 年に2回、全校子どもを対象に教育相談を実施した。</p> <p>3 アセス（学校環境適応感尺度）を実施した。</p> | <p>2 定期的な教育相談を通して、子どもの状況を把握できた。問題点があった場合は、管理職と相談し、素早い対応を行った。</p> <p>3 アセスの結果から子どもの困り感を把握し、解決に向けた組織的な取組をした。</p> | |
| <p>オ 子どもが主体的に行ういじめ防止活動の推進と、全教職員による組織的な対応の徹底に努める。</p> | <p>1 生活委員会がいじめ防止ポスターを作成し、全校に呼びかけたり、学級ごとにいじめ防止のために取り組めることを学級会で話し合ったりした。</p> <p>2 年に3回、子どもと保護者にいじめに関するアンケート調査を行い、いじめや問題行動の積極的発見に努めた。</p> <p>3 年に2回、全校子どもを対象にした教育相談日を設け、よさや成長にも目を向けながら、困ったことや悩んでいることを相談できるようにした。</p> <p>4 夏休み中に1回、全員の保護者から情報を収集する保護者面談を実施した。特別支援学</p> | <p>1 お互いのことを考えて過ごすことの大切さに気付くことができたようになった。今後も、子どものいじめに対する意識をより一層高め、いじめを未然に防ぐ風土をつくる必要がある。</p> <p>2 いじめはどこにでもあることを念頭に早期発見の体制も維持し、認知した場合は組織的に保護者との信頼関係を保ちながら対応を進めることができた。毎月の子ども理解会議で全職員での共通理解を図ることが今後も必要である。</p> <p>3 何か問題が発生した場合には、すぐに学年および管理職と相談し、情報共有に努めながら、保護者との信頼関係を保ちながら素早い対応をし解決することができた。</p> <p>4 夏休みの保護者面談では、子どもの状況を保護者と共有することができた。問題行動が見られた場合</p> | <p>B</p> | |

| | | | | |
|----------------|--|--|---|---|
| | | 級においては、保護者の要望に応じて個別に丁寧に行った。 | も、指導の前後を保護者と確認をし、子どものよりよい成長に向けて一緒に考え解決することができた。 | |
| 6 キャリア教育の充実 | ア 一人一人の子どもが、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるように、必要な基盤となる資質や能力、態度の育成に努める。 | 1 キャリア教育の年間指導計画の見直しと実践活動を行った。 | 1 年間指導計画を見直し、計画的にキャリア教育に取り組んだ。今後も教科横断的な視点でキャリア教育を進める必要がある。 | B |
| | イ キャリア教育指導体制を整え、現在及び将来の生き方を考える指導や進路指導の充実に努める。 | 1 キャリアノートは、全学年計画的に活用した。 2 生き方を見つめることにつながる授業を実施した。校外学習の施設見学では、働く人に関する内容にも触れるようにした。 | 1 子どもは、キャリアノートを書くことで自分自身を見つめさせ、将来を考えられるようになった。 2 教科の学習や校外学習、外部講師との学習を通して、仕事に対する視野を広げることができた。さらに、働く意義を学んだり、想像する将来の自分に対する今の自分を意識したりできるよう指導する必要がある。 | B |
| | ウ 子どもの発達段階に応じた勤労観や職業観の育成に努める。 | 1 縦割り班清掃や委員会活動などの誰かのために働く活動を設定した。 | 1 子どもは進んで誰かのために働くことや協力することの大切さと喜びを感じることができるようになった。また頼りにされたり褒められたりする経験が増えた。 | A |
| 7 特別支援教育の充実 | ア 発達障がいを含む障がいのある子どもなど特別な配慮を必要とする子どもが、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、その持てる力を最大限に | 1 校内特別支援会議を年に3回実施した。 2 全職員で特別支援教室の授業参観や現職教育を通して指導の在り | 1 特別な支援が必要な子どもの情報を共有し、全教職員で指導に向けて話し合い、指導の改善に生かすことができた。 2 子どもの現在の状況について理解するとともに、インクルーシブ教育システムや授業UDなど子ど | A |

| | | | | |
|---|--|---|--|---|
| | <p>發揮して自立や社会参加ができるよう、全教職員が共通理解しながら、校内特別支援教育体制の充実を図る。</p> | <p>方について研修を行った</p> | <p>もへのかかわりや指導に生かすことができた。</p> | |
| イ | <p>個別の教育支援計画及び指導計画を作成し、それを活用しながら関係機関と連携を図り支援の充実に努める。</p> | <p>1 個別の教育支援計画や指導計画を作成するとともに、村教育委員会や関係機関との連携を図った。</p> | <p>1 特別支援学級在籍の子ども、通級指導教室での指導及び教育相談を受けている子どもの個別の教育支援計画と指導計画を作成し、見直しを図りながら指導の在り方を検討することができた。</p> <p>通常学級における特別な支援を必要とする子どもにも焦点を当て指導方法を検討する機会もあり有意義な取組になった。</p> | B |
| ウ | <p>一人一人の障がい等の状態や特性、教育的ニーズを的確に把握し、自立や社会参加ができるよう、適切な指導及び必要な支援に努める。</p> | <p>1 自立活動を通して特性に合った指導を行うようにした。また、教科の指導内容を子どもの習得状況に合わせて工夫した。</p> <p>2 通常学級に在籍する特別な支援を要する子どもへ適切な指導を組織で検討し行った。</p> | <p>1 子どもの状況を踏まえ、自立活動の内容から指導に適切なものを選択し、年間を通して指導を実施した。</p> <p>2 通常学級に在籍する特別な支援を要する子どもには、支援員と学級担任、管理職が協力して支援を行った。複数の子どもがいるため、支援体制や支援内容については今後も工夫する必要がある。</p> | A |
| エ | <p>他校や外部団体との交流を図り、共同学習による相互理解の推進に努める。</p> | <p>1 弘前第一養護学校と居住地校交流を実施した。</p> | <p>1 当該学年及び特別支援学級と連携した学習を通して温かい雰囲気での交流できた。同じ地域の子どもとして、今後も継続する必要がある。</p> | A |

| | | | | |
|-----------------------------|--|--|---|---|
| 8 環境教育 の推進 | ア 教科等間の関連を踏まえ、環境にかかわる体験学習の推進に努める。 | 1 全校児童による、花の苗植えや管理を行ったり、清掃活動を行ったりした。 | 1 環境を整えることで居心地のよい生活空間を自分たちで作ることができ達成感と集団所属意識が高まった。 | A |
| | イ 地域の環境保全に主体的に取り組む指導の工夫に努める。 | 1 学校内のごみの分別指導や、家庭にあるプルタブ、使用済み切手、アルミ缶、ペットボトルのキャップの回収を行った。 2 環境委員会の取り組みでプルタブとペットボトルキャップ改修を家庭に呼びかけた。 | 1 委員会活動を通して環境保全につながる活動に取り組ませることで、環境保全に対する意識が高まった。 2 子どもの委員会活動を通して、家庭の中での環境保全に関する意識をもたせることができた。 | A |
| | ウ 一人一人の子どもが、環境と人間の関わりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境にかかわる体験活動の充実と指導に努める。 | 1 社会科や理科の学習を通して学ぶようにした。 | 1 環境と人間の生活について学び、環境を守ることが必要性に気付くことができた。4年生は、本村の家庭でも利用している黒石清掃管理組合を見学し、環境保全の意識が高まってきた。 | A |
| 9 地域の文化や伝統と国際化に対応する教育の推進 | ア 一人一人の子どもが、地域の文化や伝統について理解を深めるとともに、郷土に対する愛着と誇りを涵養する教育に努める。 | 1 総合的な学習で、地域の方を講師として地域の方のよさについて学習した。 | 1 3年生ではリンゴ栽培や流通に係る学習、5年生では稲作体験を実施した。特に5年生は全国的にも有名な田んぼアートに関わる取組であり、郷土に対する誇りの涵養につながっている。 | A |
| | イ 我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深め、国際社会に貢献しようとする心を育成す | 1 国際理解を深めるために、青森県国際交流員を講師とした授業を実施した。 | 1 国際交流員を講師として、韓国、アメリカ、台湾、イギリスの授業を実施した。他国の文化や習慣を知ることによって文化の違いや他国への興味・関心が高まっ | A |

| | | | | |
|---------------------|--|---|--|---|
| | る国際理解教育の推進に努める。 | | た。振り返りやまとめる活動を通して、生活に生かす工夫をする必要がある。 | |
| | ウ ALT（外国語指導助手）等を活用しながら、外国語教育の充実を図り、外国語を通じて子どものコミュニケーション能力を育成し、異なった文化や習慣を持つ人々との交流を積極的に推進する。 | 1 担任とALTが連携することで、コミュニケーション能力の育成を図る授業をした。 2 「イングリッシュデー」を設定し、あいさつや昼の放送等を英語で行うなど、英語に親しむ場面を設定した。 | 1 国際科の授業で英語によるコミュニケーションを経験することで、進んで人と交流しようとする意欲が向上した。 2 国際科の学びを、他の教科等の教育活動で活用していることを実感させる工夫が必要である。 | A |
| 10 情報化に対応する教育の充実 | ア 一人一人の子どもが、情報モラルを含む情報活用能力を身につけることができるよう、情報教育を推進する指導体制の整備と充実に努める。 | 1 情報教育全体計画を作成、見直しを図るとともに、環境の整備を行った。 2 村青少年問題協議会からの資料や学校作成の教材を用いた情報モラル学習を高学年で行った。 | 1 ICT環境を整備し、その活用について研修を行い、効果的に指導に生かすように努めたが、今後も継続する。 2 タブレットを低学年が共有して利活用できるように努めている。 | A |
| | イ 学習指導でのコンピュータによる情報通信技術（ICT）や学校図書館を適切に活用し、子どもの学びを支援する学習環境づくりに努める。 | 1 学習でICTを活用した。若手教員が研究授業でICT活用を提案し、現職研修も含めた研修にした。 2 図書の本の整備を行った。 | 1 各教科においてタブレットを活用したり、資料を提示したりし、子どもの興味・関心を高め、学習の定着が図られるようにした。タブレットの操作に慣れ、効果的な活用法を引き続き工夫する必要がある。 2 教室や学校図書館等において、選書や配置の工夫を行い、子どもが本に興味をもち、進んで読むようになった。 | A |
| | ウ 情報通信ネットワーク等を活用した教育の推進に努める。 | 1 学習指導に関する動画やロイロノートなどを授業で活用した。 | 1 視覚資料として動画やロイロノートのいろいろな機能を活用することで、子どもの興味や関心を高 | A |

| | | | | |
|---------------------|--|---|--|---|
| | | | まるとともに、表現が苦手な子どもの手助けとなり、意欲的な学びに結び付いた。 | |
| | エ 家庭や地域と連携しながら情報モラル教育に関する指導の充実に努める。 | <p>1 学年・学級通信、生徒指導のお便り、参観日の懇談などで情報モラルについて協力を呼びかけた。</p> <p>2 全校児童及び保護者に情報モラルに関して啓発を行った。</p> | <p>1 家庭でも情報モラルの意識を高めることができた。参観日に情報モラルの講演を実施し、保護者への啓発を行い、多くの参加者があった。</p> <p>2 講師を招いて全校児童に健康という視点で実施した。情報モラルに関しては、多様な視点で指導や保護者啓発を継続することが必要である。</p> | A |
| 1 1 教職の専門性を高める研修の充実 | ア 教育活動の充実に図るため、教員等の資質向上に関する指標を踏まえた計画的・実践的な研修の推進に努める。 | 1 校内研修を計画的に行った。年に3回の提案授業の他、初任者研修では多くの学級担任が授業参観に協力した。 | 1 年間を通して、計画的に研修会を実施し、指導力向上に努めた。授業をお互いに見合うことで、子どもにとって分かる授業の在り方について研修が深まった。 | A |
| | イ 人間性を磨き、日々互いに学び合い、指導力を高め合う研修に努める。 | 1 若手教員が研究授業でICT活用を提案し、現職研修も含めた研修にした。 | 1 教職員の経験によって得意分野が異なり、一人一人の強みを生かした提案や支援体制ができてきた。 タブレット活用の教師のスキルアップをさらに推進する必要がある。 | A |
| | ウ 学習指導要領の基本的ねらいを十分理解し、校内研修の充実に努める。 | 1 算数を研究教科に据え、授業実践中心の校内研修を計画的に実施した。 | 1 学習指導要領のねらいや育てたい資質・能力を踏まえた授業となるよう、授業実践中心の研究を推進した。 | A |
| | エ 家庭や地域社会と連携した特色ある教育活動の実践的研究の充実に努める。 | 1 地域の施設や人材を活用した学習を実施した。 | 1 地域の読み聞かせの方や、茶道講師の方においていただき、特色ある教育活動の推進ができた。 | A |

| | | | | |
|---------------------|--|---|---|---|
| | オ 学校の教育課題を解決するための実践的研究に努める。 | 1 全教職員で特別支援教室の授業参観や現職教育を通して指導の在り方について研修を行った。 | 1 現職教育で、子どもの現在の状況について理解するとともに、インクルーシブ教育システムや授業UDなど子どもへの関わり方や指導方法について学ぶことができた。 | A |
| 12 開かれた 学校づくり | ア 学校や地域の特色を生かした創意工夫ある教育課程の編成・実践に努める。 | 1 教育課程特例校として国際科を全学年で実施した。「イングリッシュデー」を設定し、日常生活化に取り組んだ。 | 1 1年生から6年生まで、国際科で英語を学ぶことで英語に対する興味を高め、継続的な学びを積み重ねた。生活日常化のための取組にはさらなる工夫が必要である。 | A |
| | イ 自己評価や関係者評価の実施・公表をとおして地域に開かれた学校づくりに努める。 | 1 教育向上アンケートを基に次年度に向けた改善点について明確にし、保護者や地域に公表した。 | 1 教育向上アンケートから子どもや保護者の実態、及び要望を真摯に受け止め、学校運営について改善に生かした。 | A |
| | ウ 学校経営に村民憲章を生かした、創意工夫された教育活動の実践に努める。 | 1 村民憲章を生かした学校目標を設定し、それをもとに学校運営を推進した。学校便りにもその内容を記載し、保護者や地域の方々にもお知らせした。 | 1 村民憲章や「いなかだて子育て8か条」日常的に生かしていけるような教育活動を実践するとともに、家庭や地域との連携も図っていく。 | A |

3 令和6年度重点施策の点検・評価

(1) 生きる力と夢はぐくむ学校教育の推進

〈田舎館中学校〉

| 重点 施策 | 重点項目 (事業名等) | 施策・事業の実施状況 | 実績・成果及び課題や 今後の取組 | 達成度 |
|------------------|---|---|--|-----|
| 1 授業内容 の充実 | ア 主体的に考え、対話を通して相手の考えを深く理解し、自分の考えを論理的に言えるような言語活動の充実を図るとともに、それに伴った指導計画等の整備に努める。 | 1 生徒が主体的に学ぶ力を育むために「課題設定の工夫」とICTの効果的な活用において「問題発見のツール」「個別最適な学びのツール」「協働学習のツール」の三つの視点を意識した授業実践を行った。 | 1 生徒が疑問を持つような課題設定をし、振り返りをすることで主体的に考える姿勢が見られた。また、ICTを活用することで、視覚的に理解ができ、意見を共有したり、比較したりすることで学びが深まった。 今後は、生徒一人一人が主体的に学ぶ力を育むために、個別最適な学びの場を充実させていく必要がある。 | A |
| | イ 一人一人の子どもが、各教科及び総合的な学習の時間等において、確かな学力を身に付けることができるよう、目指す資質・能力を明確にするとともに、学習の過程や成果の的確な把握と基礎的・基本的内容をしっかりと押さえ、学習の仕方と一人学びのできる指導の改善につながる評価の工夫に努める。 | 1 学力検査等の分析と追指導を行った。 2 授業における学習規律の確立と家庭学習の習慣化を図った。 | 1 結果を踏まえて、補充を要する単元の指導とアンダーアチーバーへの支援を行った。NRTの5教科平均は、1年生(現2年生)が50.2、2年生(現3年生)が48.3で、前年度結果より若干下回った。 2 生徒会活動の一つとして、五つある「学習心得」について、毎月重点項目を決めて点検し、生徒の意識付けをした。生徒の学習態度は良好であった。 また、5教科の学習の仕方をまとめた「学習の手引き」と「家庭学習のすすめ」を利用して、年度始めやテスト前などに指導した。授業と家庭学習を関連付けて、家庭学習の習慣化と基 | B |

| | | | | |
|--|--|---|-----------------|---|
| | | | 本的な学習内容の定着を図った。 | |
| ウ 基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得と「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性」の涵養に向けた教材研究をさらに深め、個に応じた指導に努める。 | 1 個別指導の工夫と支援員（学習支援員・特別支援教育支援員）を上手に活用した。 | 1 加配教員と支援員を授業でTTとして活用した。また、教科担任による細かいノートチェックを行い、支援が必要な生徒に対して昼休みや放課後に個別指導した。 長期休業中、生徒が自主的に学習できる場を設定し、個別指導に当たった。 | | A |
| エ 各教科等の特質に応じた体験活動をとおして、自主性や自立心の助長を図り、問題を解決する力を身に付けることができる指導の工夫に努める。 | 1 第1学年では「村内訪問学習」、第2学年では「職場体験学習」、第3学年では「田舎館村PR活動」を実施した。 2 「思春期教室」や「赤ちゃんふれあい教室」を実施した。 | 1 各学年で、体験活動を通して、自主性や自立心を育成した。1学年は村の調査・訪問学習、2学年は職業講話等の学習とあわせて、将来の職業について関心を高めることができた。3学年は事前調査や事後活動を含めて、修学旅行先で観光客へのPR活動を通して、コミュニケーション能力や自主的な態度、問題解決能力を高めることができた。 2 思春期教室や赤ちゃんふれあい教室において、講師による講演及び校内での疑似体験を実施し、命の尊さや生き方の指導をした。 | | A |
| オ 学校図書室やICTなどを活用し、子どもの学びを支援する学習環境と学習活動の充実に努める。 | 1 各教科、総合的な学習の時間等においてICT等を活用した。 | 1 タブレットPCを授業や行事等で活用した。教員間で研修を重ねたことで、教員のICT活用スキルが向上してきた。教科の特性を生かした効果的な活用が課題である。 | | A |

| | | | | |
|---------------------------|--|--|---|----------|
| <p>2 道徳教育 の充実</p> | <p>ア 一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会などの実生活に生かし、教育活動全体を通じて、豊かな心と広い視野を育む道徳教育の指導体制と全体計画の整備・充実に努める。</p> | <p>1 道徳科の時間数を確保し、全教員のローテーションによる授業を実施した。 2 道徳的価値の内面化を図る指導を充実させた。</p> | <p>1 道徳科の授業時数を確実に確保し、全教員が授業を行い、道徳科の授業の充実を図った。 2 全体計画を活用し、重点目標・項目（自主・自律・自由と責任、思いやり・感謝、生命の尊さ）を意識して、各教科等と関連付けた授業づくりを行った。</p> | <p>A</p> |
| | <p>イ 友情、思いやり、協調性がもてるような道徳的実践力を高め、道徳的判断力や心情的実践意欲と態度が身に付く指導に努める。</p> | <p>1 「館中いいね！」を実施した。 2 朝読書を継続的に実施した。</p> | <p>1 教師版「館中いいね！」と生徒版「館中いいね！」の取組を計画的に行った。思いやりや感謝の気持ちが育まれ、教師及び生徒間の良好な信頼関係が構築された。 2 朝読書を継続的に行うことにより豊かな心の育成に役立っている。</p> | <p>A</p> |
| | <p>ウ 正しい判断力と公德心を持ち、郷土を愛する心とボランティアの心の育成に努める。</p> | <p>1 全校生徒で田んぼアートの田植えと稲刈りに参加した。 2 募金活動と社会福祉活動に継続的に参加した。 3 再生資源回収活動を実施した。 4 一人暮らしの高齢者に年賀状を送り、「年賀</p> | <p>1 田植え・稲刈りを全校生徒で行った。修学旅行でのPR活動にもつながり、郷土愛を深めることができた。 2 社会福祉協議会と連携し、社会福祉施設（大鰐療育センター）でのボランティア活動を実施した。また、生徒会の活動として、各種募金活動を実施することができた。 3 生徒会が中心となって、保護者等の協力を得ながら意欲的に活動することができた。 4 生徒会文化委員会を中心に一人暮らしのお年寄りに宛てた年賀状を送っ</p> | <p>A</p> |

| | | | | |
|------------------|--|---|--|---|
| | | 状コンクール」を実施した。 | た。そこで、お礼の手紙をいただくなど、お年寄りから大変感謝された。 | |
| | エ 道徳科の学習状況と子どもの道徳的成長を継続的に把握・評価し、指導の工夫に努める。 | 1 指導に生かすため、評価記録を蓄積した。 | 1 道徳的成長の様子を継続的に把握できるように、毎時間の授業後、指導に生かすための評価を記録し、蓄積することができた。 | A |
| 3 特別活動 の充実 | ア 一人一人の子どもが、様々な集団活動を自主的、実践的に行い、集団や自己の生活上の課題解決を図り、集団及び社会での生活や人間関係がより良く築けるように、子どもに必要な資質や能力の育成に努める。 | 1 各学級で話し合い活動を計画的に実施した。 2 次の活動に生かせるように、学校行事等を振り返った。 | 1 学校行事と関連させた学級活動年間計画に基づいて話し合い活動を行わせ、よりよい集団生活のあり方について適宜考えさせることができた。また、生徒総会で議題となったことを学級や学年で再度話し合うなど、集団生活の向上に向けた取組を重ねた結果、生徒の力で校則を変えることができた。 2 行事等の振り返りを行うとともに、感想や反省、次への抱負などを書いたシートを教室内に掲示し、主体的な取組への意識を高めることができた。 | A |
| | イ 子どもの生き生きとした自主的態度を育てる学級活動やホームルーム活動の推進に努める。 | 1 学級の係活動と生徒会委員会活動を充実させた。 2 短学活のプログラムを工夫した。 | 1 生徒一人一人が学級または生徒会委員会の仕事を引き受け、役割を果たすとともに、生徒版「館中いいね！」を行うことで自己有用感を味わわせることができた。 2 朝の会、帰りの会は基本プログラムを原則にしつつ、学級独自の内容を取り入れながら工夫して行った。これにより、生徒の自主性が備わってきた。 | A |

| | | | | |
|------------------|---|--|--|---|
| | ウ 自治活動を高める児童会活動や生徒会活動を積極的に推進する。 | 1 生徒のアイデアを生かして、生徒会活動を充実させた。 | 1 生徒の運営による生徒集会、生徒の発案を最大限生かした委員会活動等により、自分たちでよりよい学校にしていこうとする意識を高めることができた。 | A |
| | エ 子どもの豊かな個性を伸ばすとともに、仲間同士の触れ合いの場を大切にするクラブ活動や部活動の活性化を目指す。 | 1 部活動及び地域スポーツクラブ等への加入を奨励した。 2 活動内容を充実させた。 | 1 92%の生徒が部活動または地域クラブに所属し活動した。今後の課題として、団体競技の人数不足により、合同チームや地域クラブ化が考えられる。 2 部活動運営方針を策定し、適切な部活動運営のための方針を教職員で共通理解するとともに、保護者へ周知した。また、活動時間を明確にし、練習内容の充実を図った。 | A |
| | オ 子どもが主役となれるような自主的活動による感動の場面や集団への所属感・連帯意識を深めるような学校行事の内容を工夫する。 | 1 館中オリンピック、文化祭、合唱コンクール、校内球技大会を充実させた。 | 1 内容を吟味しながら各行事を行った。館中オリンピックを1学期中に行うことで、学級の団結力を高めることができた。また、文化祭における学級対抗のプログラムや合唱コンクール、校内球技大会においても学級の連帯感を感じ、一人一人が所属感を味わえる行事とすることができた。 | A |
| 4 体育及び健康教育の充実 | ア 一人一人の子どもが、一生涯にわたって運動に親しみ、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを送ることができるように、家庭や地域社会との連携を図り | 1 保健体育の授業を充実させた。 | 1 様々な運動・スポーツに触れさせて、技術の向上及び体力の向上に努めた。また、スポーツテストを実施し、生徒が自己の体力に興味・関心を持つよう指導した。 | A |

| | | | | |
|---|--|--|---|---|
| | ながら、心と体を一体として捉え、健やかな体を育む教育の推進に努める。 | 2 清掃時の体力づくり活動（ステップアップタイム）を充実させた。 | 2 保健体育科と生徒会体育委員会を中心にして、生徒がリーダーシップを取って清掃時の体力づくり活動に取り組んだ。個々に目標設定をさせ、生徒の実態に合わせたプログラムを行った。 | |
| イ | 健康に関する知識を身に付け、積極的に健康な生活を実践できる指導の充実に努める。 | 1 保健学習と保健指導を充実させる。 2 歯みがき教室の実施による虫歯予防指導を充実させた。 | 1 保健体育科を中心に保健学習の充実を図った。また、熱中症の予防や感染症の予防、睡眠の大切さなどについて、保健だより等を活用して適宜指導した。 健康診断の結果をもとに、健康上問題がある生徒については、指導及び相談を行い、治療が必要な生徒の保護者に対して治療勧告書を発行した。 2 歯科衛生士を講師に招いて歯みがき教室を全学年で実施し、歯みがきの大切さを学ばせた。全生徒が給食終了後に歯磨きを継続的に行った。 | A |
| ウ | 安全な生活を送る基礎を培い、安全で安心な社会づくりに参加し貢献できる資質・能力を育てる。 | 1 安全指導を充実させた。 2 自転車の安全点検を実施した。 3 自転車交通安全教室を実施した。 | 1 生徒の実態や地域の環境を踏まえ、登下校の安全指導を行った。また、情報モラル教室では、ネット利用時のマナー、スマホやゲームによる健康被害等について指導を行った。 2 業者に依頼し、自転車点検を実施した。整備不良箇所を指摘してもらい、修理を促した。 3 弘前モータースクールから講師を招聘し、自転車 | A |

| | | | | |
|------------------|--|---|---|---|
| | | 4 避難訓練を充実させた。 | の安全運転への意識を啓発した。 4 年2回の避難訓練と年1回の不審者対策の訓練を計画的に実施した。 | |
| | エ 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができる指導の充実に努める。 | 1 教科等における指導を充実させた。 2 給食の時間を充実させた。 | 1 家庭科の授業では、栄養教諭と連携し、全学年で食の指導を行った。 2 給食時間の校内放送で、献立の紹介や食に関する知識や話題提供を行い、食への関心を持たせることができた。 | A |
| 5 生徒指導 の充実 | ア 一人一人の子どもが、健やかに成長することができるよう、家庭や地域及び関係機関等と連携を図り、心の結びつき基調として支えるとともに、問題行動や不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。 | 1 定期的、日常的な情報の共有を推進した。 2 三者面談、二者面談で保護者と情報を共有した。 3 「いじめ・不登校対策委員会」を継続的に開催した。 | 1 職員朝会や週1回の主任会議、定例職員会議等で生徒に関する情報を共有し、問題が生じた場合は速やかに対応することができた。 2 夏季休業中、冬季休業前に三者面談または二者面談を行い、学校及び家庭生活についての情報交換を行うことで、指導に役立てることができた。 3 不登校傾向にある生徒への対応について共通理解を図り、粘り強く対応した。家庭との連携、SCやSSWの協力を得ながら対応した結果、再登校できるようになった生徒や、改善へと向かっている生徒がみられた。 | B |
| | イ 基本的な生活習慣を身に付けさせ、一人一人が持っている良さを認めながら励まし、個性を大切に生きた生徒指導に努め、 | 1 日常的な生徒観察と指導を行った。 | 1 学級担任による毎日の生活記録ノートの確認・活用と学年教師による生活態度の指導を日常的に行った。 | A |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 自己指導能力を育成する協働的指導体制の充実に努める。 | 2 生徒指導の視点を生かした教育活動を充実させた。 | 2 教科指導を含め、すべての教育活動の場面で、生徒指導の四つの視点（①自己存在感の感受、②共感的な人間関係の育成、③自己決定の場の提供、④安全・安心な風土の醸成）を生かし、個性を伸ばす指導に努めた。生徒は落ち着いて学校生活を送った。 | |
| ウ | 生徒指導の実践上の視点を生かした学習指導と学年・学級・ホームルーム経営の充実に努める。 | 1 長期休業の課題を工夫した。 2 生徒版「館中いいね！」を実施した。 | 1 個々の能力に応じた課題を準備し、自己決定させながら取り組ませた。 2 帰りの会で「館中いいね！」の取組を行った。自己有用感やよりよい人間関係が育まれた。 | A |
| エ | 子どもの内面からの理解に基づいた教育相談の充実に努める。 | 1 定期教育相談と随時相談を実施した。 | 1 生徒に「日常生活アンケート」「いじめアンケート」を行い、その回答内容を生かして教育相談を実施した。また、昼休みなどに生徒と触れ合う時間を確保し、内面理解を図った。 | A |
| オ | 子どもが主体的に行ういじめ防止活動の推進と、全教職員による組織的な対応の徹底に努める。 | 1 生徒会による「いじめ防止活動」を実施した。 2 「いじめアンケート」を実施した。 | 1 生徒会主催による全校いじめ防止活動を実施し、「いじめ防止宣言の確認」「いじめ防止標語づくり」などの取組を通して全校生徒の意識を高めた。 2 生徒及び保護者に対して、「いじめアンケート」を実施した。アンケート結果を公表するとともに、些細な嫌がらせやいじり等もいじめと判断し、全校朝会で指導し、保護者とも協力しながら早急に対応した。 | A |

| | | | | |
|----------------|--|--|--|---|
| 6 キャリア教育の充実 | ア 一人一人の子どもが、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるように、必要な基盤となる資質や能力、態度の育成に努める。 | 1 キャリア教育の全体計画と指導計画を遂行した。 | 1 キャリア教育で育成する能力・態度と各学年の重点を明確にし、全体計画と年間実践計画に沿って取り組んだ。 | B |
| | イ キャリア教育指導体制を整え、現在及び将来の生き方を考える指導や進路指導の充実に努める。 | 1 進路相談と三者面談を実施した。 2 高校体験入学の参加を奨励した。 | 1 これまでの取組を継続しながら、個々の生徒の状況に応じた指導に努めた。 2 長期休業中に計画的に参加させたことにより、生徒たちの進路決定に役立った。 | A |
| | ウ 子どもの発達段階に応じた勤労観や職業観の育成に努める。 | 1 村内訪問学習（1年）、職場体験学習（2年）、修学旅行「田舎館村PR活動」（3年）を実施した。 | 1 総合的な学習の時間において、村内訪問学習（1年）での村の歴史学習や村内訪問、職場体験学習（2年）での職業講話と職場体験、そして修学旅行での「田舎館村PR活動」（3年）と系統的に配置して取り組んだ。また、校内での進路学習を通して生徒の勤労・職業観を育成した。 | A |
| 7 特別支援教育の充実 | ア 発達障がいを含む障がいのある子どもなど特別な配慮を必要とする子どもが、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、その持てる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、全教職員が共通理解しながら、校内特別支援教育体制の充実に努める。 | 1 特別支援教育委員会を開催し、支援体制を充実させた。 2 「アセス」事例研修を実施した。 | 1 特別支援教育委員会を開催し、確認された支援方法等について、全教職員が共通理解して生徒を指導した。 2 年2回「アセス」の事例研修を実施し、発達障がいを含め個々の生徒について共通理解し、支援した。 | B |

| | | | | |
|------------------|---|--|--|---|
| | イ 個別の教育支援計画及び指導計画を作成し、それを活用しながら関係機関と連携を図り支援の充実に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> 1 個別の指導計画及び教育支援計画を作成した。 2 小学校との情報交換と連携を推進した。 3 外部機関との連携を図った。 | <ul style="list-style-type: none"> 1 特別支援学級在籍生徒について、個別の指導計画及び教育支援計画を作成した。 2 小学校との情報交換を密に行ったことが、生徒の指導に役立った。 3 田舎館村教育支援委員会特別支援教育相談員と連携し、助言を得ながら生徒の支援を継続的に行った。 | A |
| | ウ 一人一人の障がい等の状態や特性、教育的ニーズを的確に把握し、自立や社会参加ができるよう、適切な指導及び必要な支援に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> 1 個別の指導計画及び教育支援計画を活用した。 2 特別支援教育支援員を活用した学習支援を充実させた。 | <ul style="list-style-type: none"> 1 個別の指導計画及び教育支援計画を活用しながら、保護者と確認しつつ継続的できめ細かな指導を行った。 2 交流学級で行う授業において、特別支援教育支援員をTTとして活用した。学習サポート等の面でも有効に機能した。 | A |
| | エ 他校や外部団体との交流を図り、共同学習による相互理解の推進に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> 1 交流学級及び小学校との交流を図った。 | <ul style="list-style-type: none"> 1 小学校との交流学習を実施し、小学生が中学校での生活を体験できる場面を設けた。特別支援学級に在籍する生徒の交流学級での授業も問題なく行うことができた。 | B |
| 8 環境教育 の推進 | ア 教科等間の関連を踏まえ、環境にかかわる体験学習の推進に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> 1 緑化推進事業を充実させた。 | <ul style="list-style-type: none"> 1 生活美化委員会と創作部が中心となって、花の植え付け、プランターの花や花壇への水やりを行った。 | B |
| | イ 地域の環境保全に主体的に取り組む指導の工夫に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> 1 省エネ、リサイクル活動を推進した。 | <ul style="list-style-type: none"> 1 生徒が地球環境保全に関心を持って、資源回収活動に積極的に参加することができた。 また、学校の使用電力や水道料金を昨年度との比 | B |

| | | | | |
|-----------------------------|--|--|---|---|
| | | | 較し、月ごとにグラフ化したものを掲示したことで、省エネに対する意識を高めることができた。 | |
| | ウ 一人一人の子どもが、環境と人間の関わりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境にかかわる体験活動の充実と指導に努める。 | 1 人間生活と環境についての学習を充実させた。 | 1 社会、理科及び技術・家庭科等の学習において、公害、地球温暖化、酸性雨、自然災害及び放射能問題などを取り上げて、人間生活の利便性と環境の悪化の相関関係について学習した。 また、節電や紙のリサイクル活動について、教師が率先して行った。その成果をグラフに表し、掲示することで、生徒が少しでも関心を持つように努めた。 | B |
| 9 地域の文化や伝統と国際化に対応する教育の推進 | ア 一人一人の子どもが、地域の文化や伝統について理解を深めるとともに、郷土に対する愛着と誇りを涵養する教育に努める。 | 1 村内訪問学習（1年）の地域理解学習を行った。 2 「田んぼアート」の田植えと稲刈りへの参加を推進した。 3 修学旅行における「田舎館村PR活動」（3年）を推進した。 | 1 村企画観光課に依頼し、本村の概要についての講話を聞いたり、村内訪問や村に関する調査学習をしたりしながら、郷土に対する理解と思いを深めた。 2 田植え及び稲刈りに全校生徒で参加し、「田んぼアート」を村の誇りに思い、郷土を愛する心が育まれた。 3 東京タワーでPR活動を実施した。生徒の郷土に対する誇りの涵養につながった。 | A |
| | イ 我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深め、国際社会に貢献しようとする心を育成する国際理解教育の推進に努める。 | 1 グローバル社会についての学習を充実させた。 | 1 社会の授業を中心に、世界文化、宗教の多様性、共生社会、人権問題、NGOの活動などについて学んだ。 | B |

| | | | | |
|---------------------|--|---|--|---|
| | ウ ALT（外国語指導助手）等を活用しながら、外国語教育の充実を図り、外国語を通じて子どものコミュニケーション能力を育成し、異なった文化や習慣を持つ人々との交流を積極的に推進する。 | 1 村教振の学習部会における小中連携を推進した。 2 ALTを積極的に活用した。 | 1 夏季・冬季休業中に、小中連携による意見交換を実施した。 2 ALTとの授業では、英語で話すことの大きな動機付けになっている。生徒は、授業や休み時間等もALTと積極的に触れ合い、英語でコミュニケーションをとっていた。 | A |
| 10 情報化に対応する教育の充実 | ア 一人一人の子どもが、情報モラルを含む情報活用能力を身につけることができるよう、情報教育を推進する指導体制の整備と充実に努める。 | 1 技術科の指導計画に基づいた指導を充実させた。 | 1 コンピュータの構成と基本的な情報処理の仕組みについて学習した。 | B |
| | イ 学習指導でのコンピュータによる情報通信技術（ICT）や学校図書館を適切に活用し、子どもの学びを支援する学習環境づくりに努める。 | 1 各教科や総合的な学習の時間の授業でICTを積極的に活用した。 2 教員の教材研究や学習指導で積極的に活用し、校内LANを生かした事務的な業務を効率化させた。 | 1 タブレットPC、大型テレビ、電子黒板を活用した授業を行った。生徒の学習意欲の向上につながっている。 2 共有フォルダを活用し、学習教材作成等や事務的な業務の効率化を図った。 | B |
| | ウ 情報通信ネットワーク等を活用した教育の推進に努める。 | 1 各教科・総合的な学習の時間で積極的に活用した。 | 1 インターネットを活用した調べ学習や一人一人の考えや班の意見の集約に活用し、生徒の学習意欲の促進を図った。 | A |
| | エ 家庭や地域と連携しながら情報モラル教育に関する指導の充実に努める。 | 1 生徒と保護者を対象にした情報モラル教室を開催した。 | 1 KDDIスマホ・ケータイ安全教室事務局から講師を招聘し、スマホ依存やインターネットの危険性等について、生徒と保護者対象の情報モラル教室を開催した。 | A |

| | | | | |
|-----------------------|--|--|---|---|
| 11 教職の専門性を高める研修の充実 | ア 教育活動の充実を図るため、教員等の資質向上に関する指標を踏まえた計画的・実践的な研修の推進に努める。 | 1 人事評価制度の面談を通して職員を育成した。 | 1 職員から提出された自己目標シートに基づく面談を行った際に、「教員等の資質の向上に関する指標」を意識した取組になるよう指導・助言を行った。 | B |
| | イ 人間性を磨き、日々互いに学び合い、指導力を高め合う研修に努める。 | 1 校内研修を充実させた。 2 道徳の授業を全教職員で実施した。 | 1 授業公開や相互参観等も含め、校内研修計画の主題「主体的に学ぶ力を育む指導法の研究」のもと、課題設定の工夫とICTの効果的な活用を通して、主体的・対話的で深い学びの授業づくりを推進した。 2 全教職員が道徳の授業を行い、教職員の意識を高めた。 | A |
| | ウ 学習指導要領の基本的ねらいを十分理解し、校内研修の充実に努める。 | 1 全教職員の授業公開・相互参観を実施した。 2 実践的な研修体制を推進した。 | 1 授業の公開・相互参観を計画的に進めたところ、指導法の改善につながるなどの成果が見られた。 2 指導主事の要請訪問ではワークショップ形式のグループ協議を行ったことにより、学習指導要領のねらいに沿った有意義な研修会となった。 | A |
| | エ 家庭や地域社会と連携した特色ある教育活動の実践的研究の充実に努める。 | 1 地域の教育資源を活用した教育活動を推進した。 | 1 村内訪問学習、職場体験学習、田舎館村PR活動、田んぼアート田植え・稲刈り、再生資源回収(PTA)などにより、地域の教育資源を活用した教育活動を推進することができた。活動は、新聞などマスコミにも紹介されることが多く、教育活動の活性化や生徒の自己有用感の向上が図られた。 | A |

| | | | | |
|----------------------|--|---|--|---|
| | オ 学校の教育課題を解決するための実践的研究に努める。 | 1 村教振の部会の事業を中心とした活動を充実させた。 | 1 村教振における小中学校間の情報交換や合同研修会、様々な教育活動を通じて、相互の理解が深まった。特に、気になる生徒の情報交換では、幼保小中が連携して系統的に取り組むことができた。 | A |
| 1 2 開かれた 学校づくり | ア 学校や地域の特色を生かした創意工夫ある教育課程の編成・実践に努める。 | 1 各種通信による情報発信を充実させた。 2 地域の教育力を活用した教育活動を推進した。 3 清掃時体力づくり活動（ステップアップタイム）を推進した。 | 1 学校便りをはじめ、各種通信や保護者への一斉メールで情報発信した。 2 村内訪問学習など、地域の教育力を活用した教育活動を推進することができた。 3 特色ある教育課程として、清掃時体力づくり活動（ステップアップタイム）を生徒主体で取り組んだ。 | A |
| | イ 自己評価や関係者評価の実施・公表をとおして地域に開かれた学校づくりに努める。 | 1 年度ごとの学校自己評価の実施と、翌年度の教育課程の改善に反映させた。 | 1 保護者アンケートを集約し、保護者の意見を学校の取組に生かした。今後も保護者の声を謙虚に受け止め、可能な限り、学校運営の参考にしていきたい。 | A |
| | ウ 学校経営に村民憲章を生かした、創意工夫された教育活動の実践に努める。 | 1 村民憲章の趣旨をもとにした村教育委員会の教育方針を踏まえた教育を推進する。 | 1 村民憲章の趣旨をもとにして設定されている村教育委員会の教育方針や地域の状況、生徒の実態を踏まえて、学校運営を進めた。 | B |

(2) 一人一人の学習と社会参加を実現する社会教育の推進

| 重点 施策 | 重点項目 (事業名等) | 施策・事業の実施状況 | 実績・成果及び課題や 今後の取組 | 達成度 |
|--|--|--|---|-----|
| 1 一人一人 の主体的 な学習と 社会参加 活動の促 進による 生涯学習 の推進 | ア 幼児から高齢者・ 障がい者を始めと する多様なニーズ に応じた学習機会 の充実に努める。 | 【家庭教育】 子どもの自立を支援していく 親の望ましい在り方を学習する 機会の提供を行う。 クリスマス制作・リズム体操 対象 川部西ヶ丘保育園 乳幼児、保護者 期 日 12月15日 場 所 川部西ヶ丘保育園 講 師 大藤 朋美 氏 参加者 30名 | 保育園の協力を得ながら、 家庭教育講座に参加した保 護者及び乳幼児を対象に開 催した。 事業実施保育園では、「親 子クリスマス制作」を通して 親子の絆を深めた。 村内4保育園等のうち1 保育園での開催となった。 | C |
| | | 【青少年教育】 自ら考え、判断し、行動する 力を育成する。 子ども会リーダー研修会 期 日 7月28日 ~29日 場 所 種差少年自然の家 参加者 中止 | 参加者不足のため中止 | E |
| | | 【成人教育】 成人教育の一環として地域に おける学習ニーズに応える。 1 成人教養講座 大人の coffee 教室 期 日 2月22日 場 所 中央公民館 参加者 20名 | コーヒーの文化や歴史、お いしくなる淹れ方等、コーヒ ーに関する知識を深めるた めの教養講座を開催するこ とができた。 | A |
| | | 2 成人教養講座 ヨガ教室「ヨガファイア」 期 日 12月 4日 ~12月18日 (全4回) 場 所 中央公民館 参加者 17名 | 柔軟性の向上や血流促進 及びダイエット効果のある 脂肪燃焼プログラムを行っ たことで、健康で豊かな生活 習慣を身につける健康講座 を開催することができた。 | A |

| | | | |
|----------------------------------|---|---|---|
| | <p>3 工作グランプリ 真冬の工作グランプリ 期 日 12月26日 ～ 2月14日 場 所 村内 参加者 13名(13作品)</p> | <p>冬の期間、家に閉じこもりがちな時間を有意義に活用できる事業として、第4回目の「工作グランプリ」を実施した。材料・造形は自由で組子細工の照明や陶芸、リース作品、プラモデルなどの応募があり、製作者や観覧者が明るく楽しめるイベントとして、村づくりにつながった。</p> | A |
| | <p>【高齢者教育】 生きがいのある充実した生活を促進する。 白寿大学講座 教養講座／映画観賞会 グラウンドゴルフ ユニカール 陶芸教室</p> | <p>令和6年度は76名の登録があり、開催した11講座に延べ327名が参加した。 学級委員会では、開催済み講座への感想や課題、今後の講座への意見が活発に行われた。人気のある講座は継続し、白寿大学生が主体性を持って学習に取り組める環境づくりが、今後必要である。</p> | A |
| イ 学校と地域・関係機関との協働による多様な学習活動を促進する。 | <p>他社会教育団体が事業を行っているので、村単独事業として実施していない。</p> | <p>学校と地域の協働については、村PTA連合会が中心となり、小中学校のPTAが協働で学習活動を行っているため、今後も村PTA連合会に社会教育団体活動の促進を図りながら、引き続き、社会教育活動補助金を交付する。</p> | C |
| | <p>活動補助金及び委託料</p> <p>1 子ども会育成連絡協議会 41,000円</p> <p>2 連合婦人会 100,000円</p> <p>3 PTA連合会 41,000円</p> <p>4 文化協会 44,468円</p> <p>5 赤もろの里コミュニティ上四協議会 45,000円</p> <p>6 畑中地区団体連絡協議会 45,000円</p> | <p>団体によって差はあるが、どの団体も一定の活動実績を上げている。引き続き、活動支援と各団体事務局の育成を継続していきたい。</p> | A |

| | | | | |
|---------------------------|--|---|--|---|
| | | 7 大根子地区団体連絡協議会 45,000 円 | | |
| | | 8 川部地区団体連絡協議会 45,000 円 | | |
| | ウ 学習成果を生かした社会参加活動を促進し、生涯学習の推進に努める。 | | 学習成果を活かした具体的な活動は行っていない。 ただし、主体的な活動は個々に行われている。 | E |
| 2 学校・家庭・地域の三者協働による人財育成 | ア 家庭の教育力を高めるため、乳幼児、小中学生の保護者を対象にした多様な学習機会の拡充に努める。 | 【家庭教育】 子どもの自立を支援していく親の望ましい在り方を学習する機会の提供を行う。 対 象 村内4保育園等 乳幼児、保護者 期 日 12月15日 | 川部西ヶ丘保育園で実施された以外、要望が無く、家庭教育講座を実施できなかった。 | E |
| | イ 心豊かでたくましい青少年の育成と地域全体で子どもを育てる活動の充実に努める。 | 1 子ども会スポーツ大会 スポーツを通して、子ども会会員相互の親睦と自主的態度を育成する。 種 目 ドッジボール ソフトドッジボール 期 日 11月23日 場 所 村民体育館 参加者 36名 | 少子化に伴い、単子子ども会だけではチーム編成できないため、混合チームを編成し、ドッジボール、ソフトドッジボールを行ったことで、会員相互の親睦が図られた。 また、新たな試みとして事前教室を開催し、青森県ドッジボール協会より直接指導を受けて競技への意欲向上を図った。 | A |
| | | 2 子ども会雪上運動会 雪に親しみ、野外で遊ぶ楽しさを体験する。 種 目 しっぽ取りゲーム そり引きリレー等 期 日 1月26日 場 所 中央公民館 参加者 30名 | 役場東側水田で雪上運動会を開催し、しっぽ取りゲームやペットボウリングなどを行ったことで、育成会を含めた会員相互の親睦が図られた。 | A |
| | 3 各単位子ども会へ 団体活動委託料 (22 団体) 200,000 円 | | 各地域の子ども会が自主的に地域の特色を活かした事業を展開している。 | B |

| | | | | |
|--|--|---|---|---|
| | | <p>4 はたちを祝う記念式典 はたちを祝う記念式典運営 委託料 130,000 円</p> | <p>はたちを祝う記念式典や 記念パーティーを行い、20 才 となったことで大人としての 自覚を持つことの重要性 や懐かしい旧友との再会で 親睦を深めることができた。</p> | A |
| | | <p>5 青少年問題協議会</p> | <p>青少年健全育成について、 活発な議論が交わされており、 推進員の活動も一定の実績 をあげている。</p> | A |
| | | <p>6 青少年健全育成運動啓発 事業 「講演会」 期 日 7月8日 場 所 中学校体育館 講 師 福士 加代子 氏 参加者 400名 「ネットリスク教室」 期 日 12月12日 場 所 小学校体育館 講 師 内山 陽子 氏 参加者 延べ342名</p> | <p>小学5、6年生と中学校全 生徒を対象に「笑って走れば 福来たる」と題し、現在まで の経歴や困難に陥った際に 立ち直ったきっかけ等、講演 を行った。 また、小学校全児童を対象 に「デジタルの使い過ぎから 心と体を守ろう」と題し、講 演を行った。 ゲームやイン ターネットの使い過ぎによ る心身の不調やネット依存 によるトラブルなどについて 学び、青少年健全育成の啓 発を行った。</p> | A |
| | | <p>7 青少年健全育成推進員 地域の健全育成の啓発事業及 び関係団体相互の連絡調整</p> | <p>スマートフォンをはじめ とした情報端末の使用につ いての提言をまとめ、小中 学校の児童生徒を通じ、保 護者へ周知した。</p> | B |
| | | <p>8 朝のあいさつ運動 【田舎館小学校】 期 日 4月 8日 7月10日 8月29日 11月13日 【田舎館中学校】 期 日 4月10日 7月11日 8月30日 11月14日</p> | <p>県事業の実施期間にあわ せ、小・中学校それぞれ年4 回、合計8回のあいさつ運 動を実施した。 青少年健全育成推進員、 小・中学校の児童生徒の協 力のもと、延べ140名が参 加した。</p> | A |

| | | | | |
|--------------------------|---|---|--|---|
| | | 9 日常的村内巡回指導 村内公園等の巡回 | 不審者対策と児童生徒の 安心・安全を確保するため、 巡回指導を行った。 | A |
| | ウ 青少年の体験活 動を充実させ、各関 係団体の指導者養 成に努める。 | 村独自の研修は実施してい ないが、指導者には青森県総合 社会教育センター及び中南教育 事務所で開催する研修等につい て、積極的に参加するように呼 びかけている。 | 社会教育委員については、 県や中南主催による研修会 等に参加することで、研修の 機会としている。 | B |
| | エ 学校教育と社会 教育が協働し、子ど もの読書活動の充 実に努める。 | | 学校教育と社会教育が連 携した具体的な活動は行わ れていない。 ただし、子どもの読書量は 多い傾向にある。 | E |
| | オ 地域と子どもが 協働できる地域キ ャリア教育に努め る。 | | 学校教育でキャリア教育 が積極的に行われており、社 会教育を中心としたキャリ ア教育活動は、現在のところ、 行われていない。 | E |
| 3 社会教育 推進体制 の充実 | ア 生涯学習・社会教 育の推進に資する 基盤の整備に努め る。 | 生涯学習推進協議会は設置し ていないが、各社会教育団体と 連携して生涯学習を推進してい る。 | 多様化、高度化する学習活 動を支援するため、さらに効 果的な社会教育推進体制の 充実が必要である。 | B |
| | イ 様々な機関や各 種団体等との連携 を強化し、活動の支 援に努める。 | 各地域では、団体連絡協議会 等を通して、団体間の連絡調整 を図り、事業を展開している。 | コミュニティ推進事業を 活用して、地域活動の活性化 と団体相互の連携強化を図 った。 | B |
| | ウ 社会教育団体が 主体的に取り組む 姿勢を育み、社会教 育活動を促進する。 | 補助金等の実績報告書を提出 する際、総会資料も添付しても らい、活動機会を促進するた めの情報収集に努めている。 | 県総合社会教育センター、 中南教育事務所等からの情 報を文化会館や中央公民館 に掲示し、各団体の活動機会 を促進するよう努めた。 | B |
| | エ 社会教育関係職 員の資質と能力を 高め、専門員として の養成に努める。 | | 社会教育関係職員を対象 とした研修等に参加できて いないことから、積極的に参 加するよう努めたい。 | E |

| | | | | |
|--------------------------------|---|---|---|---|
| 4 地域活動 に関わる 人財の育 成 | ア 学校・家庭・地域 が協働し、地域活動 に関わる人財ネッ トワークの形成に 努める。 | 1 村民レクリエーション まつり | 地区住民が一体となり、ス ポーツ、レクリエーションを 行うことで、学校・家庭・地 域の連携強化に繋がってい る。 | A |
| | | 2 田舎館小学校稲作体験 | 5年生を対象とした稲作 体験を実施しながら、田舎館 村の歴史と文化を学習し、村 の特色である田んぼアート にも興味を持ってもらうよ うにした。 また、6年生で歴史を学ぶ 足がかりとして、弥生時代の 農作業の様子を知るきっか けとなった。 | A |
| | | 3 全村一斉空き缶拾い | 各地域の人たちが一斉に、 道路周辺のゴミや空き缶を 拾い、村内各地域の清掃美 化活動を行うことで、連携 強化に繋がっている。 | A |
| | | 4 田んぼアート体験 | 田んぼアートで行われる 「田植え」と「稲刈り」の 体験に地域全体がかかわっ ており、小学生、中学生の ほか、多くの世代の人たち が協力するなど、学校・家 庭・地域の連携が強化され ており、社会教育力の向上 が見られる。 | A |
| | イ 地域活動を支え る指導者とコーデ ィネーターの養成 と実践者の育成に 努める。 | 地域活動を行う関係団体 には、補助金を交付し、助 言、指導に努めている。 また、中央公民館等の使用 時には、使用料減免措置等 を行っている。 | 各関係団体で、年々会員 の減少傾向が見られ、その ため社会教育活動に支障を きたしているところもあり、 各団体の特徴を紹介しなが ら、今後会員募集を行う必 要がある。 | A |

| | | | | |
|--|---------------------------------------|--|---|---|
| | ウ 地域づくりに取り組むリーダーや次世代の地域を担う若者の育成に努める。 | 各地区会主催の祭りやねふた運行等では、次代を担う若者が中心となって活動し、世代間交流を深めることで地域の活性化に努めている。 補助金交付団体数 17団体 (高樋、十二川原、垂柳、田舎館、畑中、大曲、諏訪堂、大根子、大袋、川部・和泉、境森、前田屋敷、堂野前、新町、東光寺、二津屋、高田) | 各地区会主催の祭りで、コミュニティ推進事業補助金が活用され、地域活動の活性化と団体相互の連携強化を図ることができた。 ねふた運行については、合同運行は12団体参加で開催したが、コミュニティ推進事業補助金が活用されず、地域を担う若者の育成ができなかった。 | C |
| | | 第47回ねふた合同運行 期 日 8月4日 参加団体数 12団体 参加者 1,030名 | 畑中初摺業精米組合前から役場敷地内までねふたが練り歩いたことで、地域住民の連帯を育んだだけでなく、次世代を担う若者を育成することができた。 | A |
| | エ 地域の特色を活かした多様な働きを可能にする学び直しの機会を充実させる。 | コーラスや三味線などのサークル活動 | 中央公民館や文化会館の貸出しを行っており、活動の場を提供することで、サークル活動の充実を図ることができた。 | B |
| | | イルミネーション事業 「ヒカリノアゼミチ」 期 日 10月21日 ~12月25日 場 所 中央公民館 写真コンテスト 107件 観 覧 者 2,672名 | 青森県の象徴であるリンゴ型のイルミネーションを天井から吊り下げて飾ることで、訪れた人に感動を与えるイベントとして、地域づくりにつなげることができた。 | A |

(3) 健やかで活力に満ちた生涯スポーツ及び競技スポーツの振興

| 重点施策 | 重点項目 (事業名等) | 施策・事業の実施状況 | 実績・成果及び課題や今後の取組 | 達成度 |
|-----------------------|---------------------------------|-----------------------|------------------------------------|-----|
| 1 スポーツ指導者の養成と資質の向上 | ア スポーツ指導者の研修機会の提供を促進し、資質向上に努める。 | 中南地域で行われた各研修会に参加している。 | スポーツ推進委員が研修会に参加することにより、資質の向上が図られた。 | A |

| | | | | |
|-------------------|-----------------------------------|---|--|---|
| | イ スポーツ指導者の活用拡充に努める。 | スポーツ推進委員を村民レクリエーションまつり（ユニカール）に審判員、運営補助員として派遣している。 | 今後は、他団体にも派遣し、生涯スポーツに対する意識を高めていきたい。 | B |
| 2 スポーツ環境の整備・充実 | ア スポーツ施設を積極的に開放し、広く村民のスポーツ振興に努める。 | 令和6年度施設利用者数 1 村民体育館 14,434名 2 克雪トレーニングセンター 15,496名 3 皂莢稽古館 通年 | 村民体育館、克雪トレーニングセンターの利用者は、コロナ後、増加している。 村民体育館以外の施設については、施設の老朽化に伴い、設置器具の破損等が見受けられるが、可能な限り、修繕等で対応した。 | B |
| | イ 学校体育施設でのスポーツ活動を推進し、施設活用の促進に努める。 | 令和6年度施設利用者数 0名 | 広く村民が活用できる方策を検討したい。 | E |
| 3 村民の健康づくりの推進 | ア 健やかで活力のある生活を送るため、スポーツ活動の推進に努める。 | 1 村スポーツ協会及びスポーツ少年団（6団体）に活動費として補助金を交付している。また、各種大会に参加した時は、経費の一部を補助している。 | 各種大会に積極的に参加し、団体が活発に活動することができた。 | A |
| | | 2 スキー教室 対象 小学生 期日 1月10日 場所 そうまロマンチックアスキー場 | 冬期間のスポーツ活動として、地域性を生かしてスキー教室を開催する予定だったが、最少催行人数に満たなかったため中止した。 | E |
| | | 3 保育園スポーツ教室（総合型地域スポーツクラブ） 村内4ヶ所の保育園等へ出前講座として講師とともに各施設へ出向き、様々なスポーツ教室（野球、バスケ、サッカー）を実施した。 そこで、子どもたちが多様な競技に触れ、多くの動きを体験することで将来への選択肢を増やすための体験の場を幼児期から提供することを目的としたものである。 | 保育園で12回開催し、延べ120名の園児に複数の競技を体験させ、幼少期に様々な動きを楽しみながら体験する機会を提供することができた。 | A |

| | | | | |
|--|--|--|---|---|
| | | <p>4 成人トレーニング教室 (総合型スポーツクラブ県委託事業)</p> <p>田舎館式トレーニング教室 「マーベラス」</p> <p>対 象 20代～60代 男女</p> <p>期 日 9月9日～ 11月25日</p> <p>場 所 村民体育館</p> | <p>村民体育館で12回開催し、延べ106名の参加者が筋力トレーニングやヨガを実施したことで、参加者の運動習慣の定着や健康づくりにつながった。</p> | A |
| | <p>イ スポーツ・レクリエーションの普及を図り、健康づくりの推進に努める。</p> | <p>村民レクリエーションまつりへスポーツ推進委員を派遣した。</p> | <p>村内諸団体へのスポーツ・レクリエーションの啓発を図っていきたい。</p> | B |

(4) 未来へ伝える芸術文化の振興と文化財の保護・活用

| 重点施策 | 重点項目 (事業名等) | 施策・事業の実施状況 | 実績・成果及び課題や 今後の取組 | 達成度 |
|--------------------|--------------------------------|---|---|-----|
| 1 芸術文化 活動の推進 | ア 村民の芸術文化に対する意識の高揚と活動の推進に努める。 | <p>文化会館や中央公民館を活用し、発表会や展示会の実施等、村民の芸術文化への意識の高揚を図った。</p> | <p>社会教育施設の効果的な活用を図り、高度な芸術文化に接する機会を提供することが必要である。</p> <p>文化協会やサークル等による発表会、展示会を実施した。</p> | B |
| | イ 伝統芸能に親しむ機会の拡充を図り、後継者の育成に努める。 | <p>垂柳獅子踊り保存会が小学校獅子踊りクラブへ芸能指導を行い、垂柳獅子踊りの伝統技術を学んできたが、令和6年度は実施することができなかった。</p> | <p>各地区で実施している無形文化財(カパカパ、福俵、ボーノ神)に対して次世代に継承していく必要があることから、コミュニティ推進事業補助金を交付し支援していく。</p> <p>現在、子どもの減少に伴い、後継者の育成が重要課題である。また、技術の伝統が途絶える可能性がある中、資料映像の作成が課題である。</p> | C |

| | | | | |
|-------------------|---|--|--|---|
| 2 文化団体の組織活動の充実 | ア 文化団体、サークル等の組織の充実に努める。 | 文化団体への活動補助金 1 文化協会 44,468 円 2 垂柳獅子踊り保存会 45,000 円 毎年行っていた芸能発表会に相当するものを収穫感謝祭の音楽イベントに組み入れて文化会館で実施した。 垂柳獅子踊り保存会が田舎館小学校に対して、年数回の指導を行っていたが、令和6年度は実施できなかった。 | 文化団体の活動の充実を図るために、活動内容に見合った適切な支援が必要である。 また、活動の支援に際し、関係施設の利用予定の調整を円滑に行っていくことが課題である。 | C |
| | イ 文化団体間の連携を図り、支援をするとともに活動の促進に努める。 | 音楽イベント、展示会（写真展、書道展、生け花展、パッチワーク展示等）を通して、サークル間の交流を深め、成果発表の場を提供することで活動の促進も図ることができた。 | 文化協会の連絡調整の強化、特に事務局の育成が重要である。 | B |
| 3 文化財の保護・活用 | ア 史跡垂柳遺跡、高樋（3）遺跡の保存・整備・活用を図り、埋蔵文化財に対する意識の高揚に努める。 | 指定管理者を通じて、遺跡の草刈り等の環境整備を実施した。 また、遺跡地の復元田を活用した稲作体験等の実施により周知・啓蒙につながった。 | 指定管理者による、さらなる環境整備と遺跡地の活用が課題である。 | B |
| | イ 博物館及び埋蔵文化財センター、総合案内所「遊稲の館」の利活用を積極的に推し進め、文化財に接する機会の充実に努める。 | 博物館の絵画等の展示替えを行っている。 米・稲・田んぼをキーワードとしたイベントの企画を実施している。 その他に、指定管理者主催で遊等の館でフォークソングコンサート、博物館でジャズコンサートを行った。 | イベント等は指定管理者に任せているが、マンネリ化防止、新イベントの提案の受け入れなど、教育委員会側も積極的な利活用につながる助言をしていきたい。 また、道の駅いなかだて「弥生の里」入り口付近の案内看板が施設見学者の増加につながることを期待したい。 | B |
| | ウ 村指定文化財の保護・啓発に努める。 | 文化財担当者や文化財保護指導員と村指定文化財を巡回し、修繕等の必要がないか、確認を行った。 | 村広報紙や公式SNS等を活用して、村文化財の存在と価値を村民に広く知らしめていくことが、今後の課題である。 | B |

| | | | | |
|-----------------|--------------------------------|--|--|---|
| | エ 無形文化財の支援及び後継者の育成に努める。 | 垂柳獅子踊り保存会への補助、支援を行った。 | 垂柳獅子踊りをはじめとした村内無形文化財の保存団体との連携を密にし、要望への迅速な対応が可能な体制を構築していく。 | B |
| 4 「田舎館村誌」の活用 | ア 社会教育・学校教育における学習機会の提供に努める。 | 現在、学校教育での学習機会の提供は、実施していない。 | 今後は、社会教育、学校教育の中で村誌を教材にして、年間を通しての学習講座が必要である。 | E |
| | イ 村の歴史を知るために田舎館村誌の効果的な利活用に努める。 | 村の歴史についての問い合わせの参考文献として村誌を参照し、また、回答の際にも村誌について言及しPRしている。 | 村の歴史を多くの人を知る機会として、ポスター掲示等による村誌の販売の周知を行い、村内外の人たちに村誌を利活用してもらえよう、取り組んでいく。 | C |

(5) 良好な教育環境づくりの推進

ア 学校教育施設の充実

| No. | 事業名 | 事業の現況等 | 実績及び今後の取組 | 備考 |
|-----|--------------------|--|--|----|
| 1 | 小学校太陽光設備改修工事 | 経年劣化による改修工事 | 整備完了 | |
| 2 | 小学校地下タンク改修工事 | 経年劣化による改修工事 | 整備完了 | |
| 3 | 小学校雪止取付工事 | 落雪による安全対策工事 | 整備完了 | |
| 4 | 小学校校務支援ソフト購入 | 働き方改革における教職員の業務負担軽減ため購入。 | 整備完了 | |
| 5 | 小学校除雪機購入 | 経年劣化による購入 | 整備完了 | |
| 6 | 中学校エレベーター改修工事 | 経年劣化による改修工事 | 整備完了 | |
| 7 | 中学校体育館照明改修工事 | 経年劣化による改修工事 | 整備完了 | |
| 8 | 中学校校務支援ソフト購入 | 働き方改革における教職員の業務負担軽減ため購入。 | 整備完了 | |
| 8 | 小学校スクールバス業務委託 | 小学校が統合となり、児童の通学手段としてスクールバスを使用するため業務委託する。 | 村内一円となったことから、今後も継続的にスクールバスの運行を業務委託する。 | |
| 9 | スクールカウンセラー派遣 | 児童生徒のカウンセリングや教員への指導助言を行う。 | 不登校や情緒不安定な児童生徒のために、これからも継続的にスクールカウンセラーを派遣する。 | |
| 10 | 学習支援員及び特別支援教育支援員配置 | 小中学校に在籍する特別な配慮を必要とする児童生徒の教育活動や学校生活での支援を行う。 | 学力向上には是非とも必要なので、今後も継続的に小中学校へ配置する。 | |

| | | | | |
|----|------------------------------|---|--|--|
| 11 | 奨学金貸与 | 田舎館村に居住する者の子弟であって就学に意欲があるにもかかわらず、経済的理由によって就学困難な者に対して奨学金を貸与し、有能な人材を育成することを目的とする。 | 高等学校 月額 10,000 円 高等専門学校、短期大学 専修学校 月額 20,000 円 大学 月額 30,000 円 | |
| 12 | 田舎館村教育振興会 | 学校教育の振興を図るための調査研究等を委託する。 | 児童生徒の学習と体力に関する調査研究、小中学校教職員の合同研究会や小中学校交流会等を実施している。小学校が統合して、小学校1校、中学校1校となり、これまで以上に小中学校の連携を深め、今後、様々な施策等を大いに期待できる。 | |
| 13 | 中学校各種大会等 出場費補助 | 中体連地区大会・県大会等の各種大会に係る出場費の補助を行う。 | 定められた基準に基づいて補助金を交付した。 | |
| 14 | 要保護及び準要保護 児童生徒援助費補助 事業 | 学校教育法第19条に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対して就学援助を行う。 | 要保護児童生徒（生活保護受給者）には、修学旅行費を支給する。 準要保護児童生徒には学用品費等、修学旅行費、学校給食費を援助費として支給する。 近年、経済状況の不安定さや母子・父子家庭の増加等により、準要保護認定者数も増加傾向にある。このような状況において、財源の確保や認定基準の見直し等、今後の課題も多いが、教育の機会均等の実現を図るため、今後も継続が必要である。 小学校 30人 中学校 36人 | |

| | | | | |
|----|-------------------|--|---|--|
| 15 | 特別支援教育就学奨励費補助事業 | 特別支援学校及び小中学校の特別支援学級への就学の特殊事情を鑑み、これらの学校への児童生徒又は生徒の就学による保護者等の経済的負担を軽減し、特別支援教育の普及奨励を図ることを目的とする。 | 特別支援教育奨励費の品目は、学用品費等、修学旅行費、学校給食費を奨励費として支給する。 なお、当事業は国庫補助事業であり、村内で該当する児童生徒が在籍していれば、今後も当事業を積極的に活用していきたい。 小学校 13人 中学校 1人 | |
| 16 | 第3子以降小・中学校等入学祝金事業 | 次代を担う子の健全な育成を図るとともに、子育てをする家庭の経済的負担を軽減し、安心して子育てをしたくなるむらづくりを進め、併せて、子育て支援の充実を図ることを目的とする。 | 5月1日時点で村内に住所を有し、小学校又は中学校に本年度入学した第3子以降の児童生徒を現に養育している保護者に対して、10万円を支給する。 小学校 15人 中学校 7人 | |

イ 社会教育施設の充実

(ア) 工事事業

| No. | 工 事 名 | 工 事 内 容 | 完 了 期 日 |
|-----|------------|-----------------------------|-----------|
| 1 | 文化財標柱等改修工事 | 既存の文化財説明板・標柱の文字及び塗装の色入れ直し工事 | 令和7年3月26日 |

(イ) 施設の利用状況

a 中央公民館

(単位：件、人)

| 年 度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|------|-------|-------|-------|--------|--------|
| 利用件数 | | 272 | 481 | 759 | 953 |
| 利用者数 | | 3,385 | 8,097 | 12,554 | 13,835 |

b 村民体育館

(単位：件、人)

| 年 度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|------|-------|--------|--------|--------|--------|
| 利用件数 | 634 | 715 | 832 | 812 | 894 |
| 利用者数 | 9,740 | 10,014 | 12,010 | 12,541 | 14,434 |

c 文化会館

(単位：件、人)

| 年 度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 利用件数 | 288 | 205 | 213 | 207 | 203 |
| 利用者数 | 6,556 | 6,091 | 5,751 | 6,532 | 6,701 |

d 克雪トレーニングセンター

(単位：件、人)

| 年 度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|------|--------|-------|--------|--------|--------|
| 利用件数 | 840 | 575 | 844 | 919 | 889 |
| 利用者数 | 14,592 | 8,581 | 12,525 | 13,819 | 15,496 |

e 埋蔵文化財センター・博物館

(単位：人)

| 年 度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 利用者数 | 929 | 1,588 | 2,450 | 4,544 | 3,874 |

f 総合案内所（遊稲の館）

（単位：人）

| 年 度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 利用者数 | 935 | 1,242 | 2,577 | 2,582 | 2,634 |

g 中央公民館図書室蔵書状況（令和6年度）

（単位：冊）

| 状況等 | 図書室蔵書数 | 購入冊数 | 寄贈冊数 | 除籍冊数 |
|-----|--------|------|------|------|
| 冊 数 | 14,259 | 289 | 6 | 0 |

h 中央公民館図書室図書貸出

（単位：人、冊）

| 年 度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 利用者数 | 640 | 1,173 | 1,471 | 1,544 | 1,421 |
| 冊 数 | 1,659 | 3,013 | 3,835 | 3,755 | 3,792 |
| 内児童図書 | 458 | 773 | 806 | 780 | 917 |

ウ 国・県・村指定文化財

| No. | 名 称 | 所有者・管理団体 | 所 在 地 | 指定年月日 |
|-----|----------------|-----------|---------------|------------|
| 1 | 史跡垂柳遺跡 | 田舎館村 | 垂柳・高樋 | H12. 4. 11 |
| 2 | 十一面観音像 | 田舎館村 | 田舎館 | S37. 6. 29 |
| 3 | 垂柳遺跡出土品 | 田舎館村 | 田舎館村埋蔵文化財センター | S46. 5. 6 |
| 4 | 垂柳獅子踊り | 垂柳獅子踊り保存会 | 垂柳 | S53. 3. 1 |
| 5 | 田舎館城址 | 田舎館村 | 田舎館 | S53. 3. 1 |
| 6 | サイカチ大樹 | 田舎館村 | 田舎館 | S53. 3. 1 |
| 7 | 二本柳一族の墓碑 | 諏訪堂地区総代 | 諏訪堂 | S54. 6. 22 |
| 8 | 中村喜時の資料と家筋関係資料 | 故 中村 壮 | 堂野前 | S54. 6. 22 |
| 9 | 極楽寺大日堂文書 | 田舎館村 | 田舎館村収蔵庫 | S54. 6. 22 |
| 10 | エゾエノキ大樹 | 熊野宮神社総代 | 川部 | S54. 6. 22 |
| 11 | 嘉暦の古碑 | 稻荷神社総代 | 大袋 | H 6. 6. 28 |
| 12 | 二津屋の板碑 | 二津屋地区総代 | 二津屋 | H 6. 6. 28 |
| 13 | 中村喜時著「耕作噺」 | 田舎館村 | 田舎館村博物館 | H14. 4. 1 |

(6) 食育の推進

| 重点 施策 | 重点項目 (事業名等) | 施策・事業の実施状況 | 実績・成果及び課題や 今後の取組 | 達成度 |
|------------------|--|--|---|-----|
| 1 学校給食 の充実 | ア 適切な栄養 の摂取によって 健康の保持増進 に努める。 | 1 バランスの取れた学校給 食の提供 2 健康の保持増進を図る献 立の作成 | 1 栄養基準を満たし、 バランスの取れた給食 を提供することができ た。 2 健康や栄養に留意し た魅力ある美味しい献 立の作成に努めた。 | A |
| | イ 日常生活に おける食事につ いてマナーなど 正しい基礎知識 を深め、子ども たちが望ましい 食習慣ができる ように努める。 | 1 栄養教諭による食育指導 2 校内放送をとおしての情 報提供 | 1 栄養教諭が食育指導 を展開し、食事を通じ た人間関係形成能力や 食事マナーを身に付け る指導を行った。 2 給食時間の校内放送 をとおして、食習慣や 食事のマナーなどの情 報を提供した。 | B |
| | ウ 郷土の自然 からの恵みや生 命の尊さについ て感謝する心を 育てる。 | 1 地元食材の利用と郷土食 の活用 | 1 地場産物の利用拡大 と郷土食の活用で、食 への関心や郷土の愛着 をもたせる取り組みを 行った。 | A |
| | エ 「給食だよ り」通じて、食料 の生産、流通及 び消費について 理解を深める。 | 1 給食だよりをとおし、食 料の生産や流通及び消費の 情報発信 | 1 「給食だより」に、食 料の季節による生産の 特徴や流通の仕組み等 を掲載し、情報を発信 した。 | B |

4 令和6年度 社会教育関係事業実績

- 主催事業・・・教育委員会による自主運営、予算付き、国・県による補助金助成事業など
- 支援事業・・・他団体による運営、予算補助、会場提供、準備協力など
- ※ 社会教育委員会議 令和6年4月26日、令和7年3月5日

(1) 家庭教育

【重点目標】家庭教育に関するテーマを設定し、子どもの自立を支援していく親の望ましい在り方を学習する機会の提供を行う。

| 事業名 | 目的・内容 | 対象 | 開催期日 | 場所 | 参加者 |
|---------|--|------------|--------|----------|-----|
| ■家庭教育講座 | 幼児、児童教育を基軸とした広義の「家庭教育」として継続していく。 ・親と子の心のふれあい、育児について | 幼児、小学生と保護者 | 12月15日 | 川部西ヶ丘保育園 | 30名 |

(2) 青少年教育

【重点目標】子どもを中心とした学校外活動を通して、自らを考え、判断し、行動する力を育成する。

| 事業名 | 目的・内容 | 対象 | 開催期日 | 場所 | 参加者 |
|--------------|--|---------------------------------------|--|----------------------------------|--------------------------------|
| ■青少年問題協議会 | 青少年育成県民会議と連携し、地域の健全育成の啓発事業及び関係団体相互の連絡調整を図る。 青少年健全育成運動啓発事業の開催 ・講演会、ネットリスク教室 | 協議員 (推進員) 小学5,6年生 中学生 小学生 | 6月25日 3月6日 7月8日 12月12日 | 文化会館 文化会館 中学校体育館 小学校体育館 | 11名 名 400名 延べ 342名 |
| ■青少年健全育成推進員 | ・日常的巡回指導 (強化月間：夏休み中) ・朝のあいさつ運動(小・中学校) 今年度は県事業連携で年4回実施 ・有害環境浄化活動の推進 ・声かけリーダー事業への参加 | 推進員 | 年間随時 7月～11月 4月8日、10日 7月10日、11日 8月29日、30日 11月13日、14日 | 村内公園他 小中学校 | 11名 98名 |
| □子ども会リーダー研修会 | 施設を利用した体験活動を通して、積極的に活動できるリーダーを育てる。 ・野外レク等 | 小学生 | 7月29日～30日 (中止) | 種差少年自然の家 | |
| □子ども会スポーツ大会 | スポーツを通して、子ども会会員相互の親睦と自主的態度の育成を図る。 ・ドッジボール、ソフトドッジボール | 小学生 | 11月23日 | 村民体育館 | 36名 |
| □子ども会雪上運動会 | 雪に親しみ、屋外で遊ぶことの楽しさを体験するとともに冬の期間の運動不足の解消を図る。 また、育成者も参加することによって、相互の親睦と交流を通して、育成者の研修を行う。 | 小学生 | 1月26日 | 役場東側水田 | 22名 |

(3) 成人教育

【重点目標】成人教育の一環として地域における学習ニーズに応える。

| 事業名 | 目的・内容 | 対象 | 開催期日 | 場所 | 参加者 |
|-----------------|--|---------------|------------------|-------|---------------|
| ■はたちを祝う 記念式典 | 20才としての門出を祝う。 | 20才 | 1月12日 | 文化会館 | 50名 |
| ■成人教養講座 | 成人を対象にコーヒーの文化や歴史、おいしくなる淹れ方等の講座を開き、コーヒーについての教養を豊かにする。 ・大人のcoffee教室 | 18才以上 | 2月22日 | 中央公民館 | 20名 |
| | 柔軟性の向上や血流促進及びダイエット効果もあるトレーニングによる脂肪燃焼プログラムを全4回実施し、健康づくりを行う。 ・ヨガ教室「ヨガファイア」 | 20代～ 40代女性 | 12月4日 ～12月18日 | 中央公民館 | 延べ 45名 |
| ■工作グランプリ | 冬の期間、家に閉じこもりがちな時間を工作に夢中になることで、一人の時間を有効活用し、 また、それを発表する機会をつくり、皆と共有できるイベントとして、村づくりにつなげる。 | 村民 | 12月26日 ～2月14日 | 村内 | 13名 (13作品) |

(4) 高齢者教育（白寿大学）

【重点目標】高齢者の生活環境の変化や多様化する学習要求に応え、生きがいのある充実した生活を促進する。

| 事業名 | 目的・内容 | 開催期日 | 場所 | 参加者 |
|-----------------------|--|-------|-------------------------------|-----|
| ■開講式 | 開講式(黒石警察署、田舎館村交通安全母の会による「高齢者の交通安全教室」)、令和6年度事業計画の説明、学級委員選出 | 4月26日 | 文化会館 | 43名 |
| ■教養講座 施設見学 | 新聞制作の流れ(動画鑑賞)やホール展示物、輪転機、発送フロアを見学する。 | 5月23日 | 青森市 東奥日報社 | 38名 |
| ■健康講座 グラウンド ゴルフ | 専用のコースでグラウンドゴルフを楽しみ、ルールも学びながら心身のリフレッシュを図る。 | 6月27日 | 大鰐町 あじゃら山 グラウンド ゴルフ場 | 17名 |
| ■教養講座 田舎館村の現代史 | 少し前の駅や学校、村の行事などを写真で振り返り、村の現代史について学ぶ。 講師：青森県交通・地域社会部地域生活文化課 中園 裕 氏 | 7月30日 | 中央公民館 | 24名 |
| ■学級委員会 | 今年度事業の現状と課題、これからの事業について | 8月23日 | 中央公民館 | 9名 |

| | | | | |
|------------------------|---|--------|-----------------|-----|
| ■教養講座 総合的な芸術 の発信 | 青森県立美術館の作品の企画展や常設展、その他演劇、音楽、映画といった催しについて学ぶ。 講師：青森県立美術館舞台芸術企画課長 櫻庭 憲生 氏 | 9月25日 | 中央公民館 | 19名 |
| ■教養講座 施設見学 | 「北海道・北東北の縄文遺跡群」として世界文化遺産に登録された三内丸山遺跡を見学する。 | 10月24日 | 青森市 三内丸山遺跡 | 27名 |
| ■健康講座 ユニカール | ユニカールのルールを学びながら楽しみ、心身のリフレッシュを図る。 | 11月27日 | 中央公民館 | 31名 |
| ■体験学習 陶芸教室 | 粘土をひも状に伸ばし、コーヒーカップや湯呑み茶碗に成形する作業を体験する。 | 12月19日 | 板柳町 ふるさとセンター | 23名 |
| ■教養講座 交通安全教室 | 役場総務課防災交通係と青森県交通・地域社会部地域生活文化課交通・地域安全グループによる交通安全教育プログラム「みんなで振り返る対話型交通安全教室」を聞き、増加傾向にある高齢者に起因する交通事故を防止するためのプログラムを学ぶ。 | 1月24日 | 中央公民館 | 24名 |
| ■教養講座 映画鑑賞会 | 大阪市箕面市の市民企画講座「60才からの演劇入門」の参加者によって立ち上げられた「すずしろ」のドキュメント映画「晴れ舞台はブロードウェイで！シニア劇団の挑戦」を鑑賞する。 | 2月26日 | 文化会館 | 45名 |
| ■閉講式 教養講座 | 閉講式、皆勤賞表彰 講座「政治参画の大切さ～選挙・投票以前の問題として～」 講師：柴田学園大学准教授 小野 昇平 氏 | 3月25日 | 文化会館 | 36名 |

(5) 社会体育(生涯スポーツ)

【重点目標】 村民が健康増進と親睦を図るため、各種スポーツ行事を開催し、合わせて生涯スポーツの振興に努める。

| 事業名 | 目的・内容 | 対象 | 開催期日 | 場所 | 参加者 |
|-----------------|--|-----|---------------|------------------------------|-------|
| ■村民レクリエーションまつり | 地区住民が一体となり、スポーツ、レクリエーションを通して、体力づくりと住民相互の親睦を図る。 | 村民 | 8月18日 | 中央公民館 村民体育館 | 約400名 |
| ■スキー教室 | スキー技術に応じたグループレッスンにより、スキーに親しみ、スキーの基礎の習得と健全な精神、体力づくりと仲間づくりを図る。 | 小学生 | 1月10日 (中止) | 弘前市 そうまロマン トピアスキ ー場 | |
| ■スポーツ推進 委員派遣 | 関係団体へ指導者(スポーツ推進委員)を派遣し、軽スポーツの普及を図る。 | 村民 | 年間 | 村民体育館 他 | 8名 |

| | | | | | |
|--------------------------------------|--|---------------------|--|---------------|------------|
| | ・軽スポーツ…ソフトバレー、 カローリング、ユニカール他 | | | | |
| □第77回 県民体育大会 | 参加競技：陸上、軟式野球、卓球、 剣道、相撲、ソフトボール、バス ケットボール、バドミントン、ボウ リング、ゲートボール、テニス、サ ッカー、グラウンドゴルフ 計13種目 結果：町村の部第9位（49.93点） | 県民 村内成人 | 7月27日 ～28日 先行開催 7月20日 ～21日 | 西北地域 各体育施設 | 203名 |
| □第32回 県民駅伝大会 | 全9区間（約26.1km） 小学生（男子1区間、女子1区間） 中学生（男子2区間） 中学生以上（女子2区間） 高校生以上（男子3区間） 結果：村の部第1位（2年連続） | 県民 村内小学 生～成人 | 9月1日 | 青森市内 特設コース | 30名 |
| □保育園スポーツ 教室 （総合型地域スポ ーツクラブ） | 村内4ヶ所の保育園へ講師ととも にこちらから施設へ出向き、様々な スポーツ教室（野球、バスケ、サッ カー）を実施することで、親の送り 迎えの負担軽減に繋げ、なおかつ、 保育園側の活動の幅も増やし、多様 な競技に触れ、多くの動きを体験す ることで将来への選択肢を増やすた めの体験の場を幼児期から提供す る。 | 保育園 年長児 | 4月～3月 の年12回 （保育園） | 村内 4保育園 | 延べ 120名 |
| □成人トレーニン グ教室 | 中年層から若年層にかけての需要 が高まる筋力トレーニング等に関し て、地域住民の運動習慣の定着や健 康づくりの充実につなげるため、実 施する。 ・田舎館式トレーニング教室 『マーベラス』 | 村内 20代～60代 男女 | 9月9日～ 11月25日 全12回 | 村民体育館 | 延べ 106名 |

（6）文化活動及び保護、活用事業

【重点目標】 史跡垂柳遺跡が代表するように、本村は古くから稲作文化が連綿と営まれてきた北方稲作文化の地である。歴史ある村に残された文化財を後世に継承するため、地域文化財の保護・保存に努める。

| 事業名 | 目的・内容 | 対象 | 開催期日 | 場所 | 参加者 |
|---------------------|--|----|-------|-------|-----|
| ■田舎館村文化財 保護審議委員会 | 田舎館村に所在する文化財の保護 ・活用、又は管理に関し、委員会の 諮問に答え、意見を具申し、このた めの必要な調査研究を行う。 | 委員 | 5月20日 | 中央公民館 | 3名 |

| | | | | | |
|-----------------|---|-------------|----------------|-----------------|----------------|
| □田舎館小学校 稲作体験 | 稲作を通じて、ものづくりの大切さ、厳しさを体験するとともに、米を主産業としている村の歴史や文化への興味や理解を深める。 | 田舎館小 5年生 | 5月22～ 10月1日 | 総合案内所 (遊稲の館) | 延べ 272 名 |
| □垂柳獅子踊り 保存事業 | 垂柳獅子踊り保存会へ補助金を交付する。また、田舎館小学校獅子踊り講習会へ講師を派遣する。 | 講師派遣 | 実績なし | | |

(7) 地域づくり事業

【重点目標】村づくりの一環として、村民の連携・協力・奉仕の心を培うとともに、地域の環境整備を図る。

| 事業名 | 目的・内容 | 対象 | 開催期日 | 場所 |
|------------------|---|---------------------|-------------------|---|
| ■全村一斉 空き缶拾い | 雪解け後に目立つ道路周辺のゴミや空き缶を拾いながら村内各地域の清掃美化活動を行う。 | 村民 | 4月14日 | 村内各地区 周辺 |
| ■イルミネーション 事業 | 過去に村内4保育園年長児が制作体験によって制作した光の玉で夏祭りを盛り上げ、それを稲穂やりんごの形のイルミネーションとともに中央公民館内外に飾ることで、訪れた人に感動を与えるイベントとして、村づくりにつなげ、SNSを活用した写真コンテストを行う。 | 村民 近隣住民 (観覧者) | 10月21日 ～12月25日 | 中央公民館 写真コンテスト 107件 観覧者 2,672名 |
| □コミュニティ 推進事業 | 地域住民が心のふれあいを深め、健康で生きがいのある生活と豊かで住みよいコミュニティ活動事業の促進を目的とする。(令和2年度～令和6年度まで) ・補助対象団体は地区会(各種イベントは1地区60,000円上限、その他の事業は1事業20,000円上限) ・令和6年度交付団体数 17団体(高樋、十二川原、垂柳、田舎館、畑中、大曲、諏訪堂、大根子、大袋、川部・和泉、境森、前田屋敷、堂野前、新町、東光寺、二津屋、高田) 各種イベント 11団体(田舎館、畑中、大曲、諏訪堂、大根子、川部・和泉、堂野前、新町、東光寺、二津屋、高田) 伝統芸能の保存・活用事業 14団体(高樋、十二川原、垂柳、大曲、諏訪堂、大根子、大袋、境森、前田屋敷、堂野前、新町、東光寺、二津屋、高田) その他の事業 1団体(二津屋) | | | |
| □第47回ねぶた合 同運行 | 津軽の夏の風物『ねぶた祭り』は、子どもたちに夢を与え、地域住民の連帯を育むだけでなく、活力のある村づくりと青少年健全育成、交通安全を願い、開催する。 | 村内外 ねぶた 運行団体 | 8月4日 | 中学校～ 役場 12団体 1,030名 |

(8) その他(村内の諸団体の開催事業)

公民館関連事業ではないが、村内諸団体の開催事業で、何らかの形で協力しているもの。

| 事業名 | 目的・内容 | 対象 | 開催期日 | 場所 | 参加者 |
|---|--|-------------|-------|-------|------|
| <input type="checkbox"/> 第20回栃ノ海杯 争奪相撲大会 | ・個人戦：小学生学年別男女別 中学生学年別 ・団体戦：予選、 決勝トーナメント | 村内外 小中学生 | 9月15日 | 村民相撲場 | 138名 |

| 事業名 | 目的・内容 | 対象 | 開催期日 | 場所 |
|---|--|-----|----------------|------------------------|
| <input type="checkbox"/> 田植え体験ツアー | 紫稲、黄稲、まっしぐら等で稲 文字や図柄（神奈川沖浪裏と北里 柴三郎）の形に手植えをする。 | 村内外 | 6月2日 | 役場東側水田 |
| <input type="checkbox"/> 稲刈り体験ツアー | 田んぼアート会場の稲を手作業 で稲刈りをする。 | 村内外 | 9月29日 | 役場東側水田 |
| <input type="checkbox"/> 収穫感謝祭 <input type="checkbox"/> シクラメン市 | ・村文化団体の作品展示 ・健康展 ・INAKADATE ROCK FES 2024 ・シクラメンの販売 | 村内外 | 11月16日 ～17日 | 文化会館 中央公民館 村民体育館 |

| 事業名 | 目的・内容 | 対象 | 開催期日 | 場所 | 参加者 |
|-----------------------------------|---|-----|------|-------------------------|------|
| <input type="checkbox"/> 指定管理委託事業 | 田舎館村博物館、田舎館村埋蔵 文化財センター、田舎館村総合案 内所（遊稲の館）施設の管理・運 営及び史跡垂柳遺跡の環境整備を 委託。 また、稲作体験などの継続事業 及び民間活力を導入した諸事業の 実施。 稲作体験・正月飾り教室など | 村内外 | 随時 | 埋蔵文化財 センター・ 遊稲の館他 | 713名 |